

車体

NEWS

WINTER 2023 冬

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



医療防疫車
(詳細はP.53を参照)

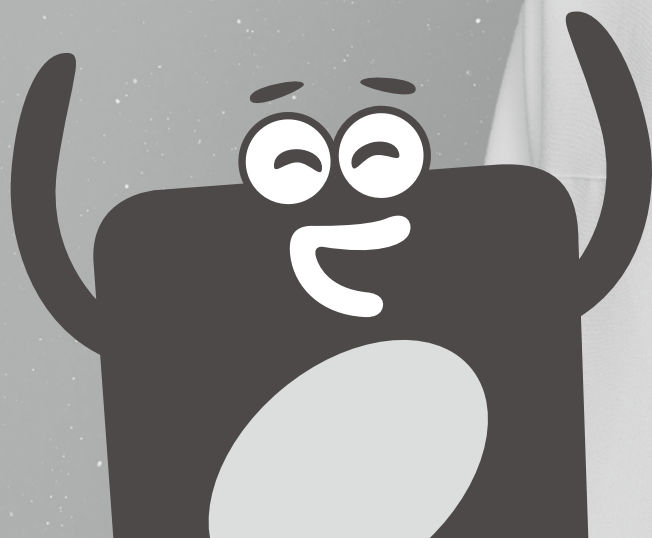
CONTENTS

巻頭言	2
NEWS特集	
2023年秋季会員大会を開催	3
ジャパンモビリティショー2023に出展	5
講演会を開催	
「国内商用車市場動向と業界を取り巻く環境」	7
カーボンニュートラル対応 第10回	9
2022年度会員企業の売上高／従業員数調査まとめ	11
NEWS FLASH	
本部だより	12
部会だより	15
支部だより	21
官公庁だより	23
会員情報	25
月度活動状況	29
NET WORK vol.113	
マジカル・テクニカ(株)	33

VOICE STAGE 101	
(株)アサイマーキングシステム	35
小松マテーレ(株)	36
そこが知りたい 第59回	
「2025年大阪万博」	37
働くクルマたち 第43回	
「コンクリートポンプ車」	39
COFFEE BREAK	41
いどばた会議 第16回	
「私のSDGs Part7」	43
我が社の元気人	45
DATA FLASH	
2023年4月～9月 会員生産状況概要	46
お知らせ	53
編集後記	53

セカイの、 ミライの、 イノアック。

イノアックはウレタン、ゴム、
プラスチック、複合材の高分子素材メーカー。
ものづくりの素をつくる仕事で世界の、
そして未来のものづくりを支えているよ。



蟻の思いも天に登る ～協力と連携で 明るい未来を切り拓こう～

特種部会長 森 孝義

中京車体工業(株)・代表取締役社長



私たち特種部会は、『働くクルマ』の中でも、普段ほとんど目にしないが無くてはならない一品様な車を作る企業が多く集まっています。メーカー系で量産化できないどころか大手が手がけるとどうしても採算が厳しい、一品ものの『働くクルマ』の製作を得意としています。そのため、当部会は中小零細企業が多く、架装売上で20億円程度あれば部会内では大手にあたります。

当部会だけではないかも知れませんが、仕事は単発的な受注生産が多く、また、年度末の2月3月に納車が集中するため、年間の業務の平準化が難しく、下半期は超繁忙でも、上半期は比較的仕事に余裕ができる企業も多くあります。仕事は受けたくても、キャパシティが小さく、大きな仕事が重なってしまうと、二進も三進も行かなくなることは恒例です。

そのため、『塗装できない?』『钣金頼めない?』など、日頃から部会員同士のネットワークをフル活用し、お互いに持ちつ持たれつ、助け合い協力し合うことで、どうにかお客さまの納期要望に間に合うよう切り盛りしています。

話は変わりますが、何年経っても、自社の仕事を簡潔に伝えるのは困難だと感じています。一般の方に、『御社はどんな会社ですか?』『どんな車を作っていますか?』と質問されると、回答に戸惑います。我々の仕事は、ほとんど見掛けられないような車の架装改造を手がけているためです。とりあえず、『弊社はマイクロバスを中心とした車を改造しています。』そう答えると、よほど詳しい方以外は、『キャンピングカーとかですか?』と仰います。私たちにとってはキャンピングカーも量産です。そこで、弊社が携わった車両のうち、減多に作らない車ですが、テレビの露出が多くイメージしやすいため、『国政選挙など大きな選挙のときに、大きな駅前で候補者が演説している選挙カーなどを作っています。』と、選挙カーを例に出すようにしています。そんな弊社

と同様に、部会内の多く企業は、毎回違った仕様を頼まれ、また、裏舞台で活躍するような特殊な車が多いため、どんな車を作っているか一般の方に理解していただくのが困難なのは事実です。

また、製作実績の少ない車や初めて作のような車のお話も多く、『世の中に無い車や、実績の無い車を作るのが得意です。』としか答えられないケースも多々あります。しかしながら、どんなに希有な存在でも世の中には無くてはならない車を作りあげて、社会の重要な役割を担っているのが私たち特種部会の使命なのです。

私は、2022年から特種部会の部会長を拝命しましたが、車体工業会の理事や部会長を担った歴代企業の中では、おそらく過去最小規模の車体メーカーだと思います。弊社単体の売上は数億円しかなく、普段はマイクロバスの二次架装を中心としており、特種車両に分類される車の製作台数は極めて少ないです。そんな企業ではありますが、日本の縮図のような極小規模企業の視点から、日々目まぐるしく変化する自動車業界の中で生き抜く方法を模索して参りたいと考えています。

日本の企業は、360万社以上、事業所数では500万以上、そこで働く従業員が5,800万人程度と言われてます。平均すると一事業所あたり約11人しかいません。きっと、ほとんどが何をやっているかを知られていない企業ばかりでしょうが、日本はそんな多くの中小企業に支えられて成り立っています。大企業はもちろん、たとえどんな小さな企業でも取り残されることないよう、「働くクルマ」作りを通じたネットワークを駆使し、互いに連携し助け合うことで、SDGsやCN社会にも積極的に貢献し、日本の明るい未来と持続可能な社会の実現を共に目指して参りましょう。誠に微力ながら、蟻の思いが天に登る日を夢見て今年も邁進して参ります。

2023年度秋季会員大会を開催



2023年度秋季会員大会が、10月27日、東京ベイ有明ワシントンホテル・アイリスにおいて開催され、多くの会員が出席した。

増井 会長

■ 会長挨拶

車体工業会会長を務めております増井でございます。

会員の皆様には日頃から当会の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

今年は東京モーターショーが「ジャパンモビリティショー」として生まれ変わり、一昨日のプレスデーより4年ぶりに開催されております。

当会におきましても対面形式での「秋季会員大会」を4年ぶりに開催をさせていただきます。

ご多用中にもかかわらず、多くの皆様に、ご出席をいただき開催することができましたことに、心より感謝申し上げます。

ところで、本年も各地で多くの自然災害が発生しました。被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

もし、お困りごとがございましたら、当会事務局にご遠慮なく、ご相談いただければと思います。

それでは、当会の活動状況についてお話しさせていただきます。まず、当会会員の本年度4月から9月の生産台数累計は、109万2千台、前年比122.1%となっております。そのうち、カーメーカーからの委託生産車を除く、当会特有車種を見ますと、シャシ納入遅れ問題などが改善されつつあり、トレーラを除く製品が前年比増に転じて、7万8百台、前年比116.5%となりました。

明るさが少し見えてきたとはいえ、世界情勢が不安定さを増す中、原油価格・物価の高騰など、依然として経済を取

り巻く環境は厳しく、引続き予断を許さない状況です。

次に当会の事業計画の進捗状況について少しお話しさせていただきます。

今年度も、「カーボンニュートラル対応」、「安全対応活動の推進」、「環境対応自主取組みの推進」、「中小企業支援活動の推進」、「活性化活動の継続推進」の主要活動5項目について活動しております。

その中でも「カーボンニュートラル対応」につきましては、2030年に向けた「推進ロードマップ」に基づき、本年度からは、活動の主体を本部委員会・部会・更には支部へと拡大し、活動を進めております。

今月17日の第22回のカーボンニュートラル専門委員会の中では、各本部委員会と部会の活動状況報告を通じて、各部会それぞれの特徴・課題を皆さんと議論、確認ができた有意義な場となりました。

会員のみなさんの生の声に寄り添った活動に一步でも近づけて参りたいと思います。

勉強会につきましてもホームページで「入門編」の動画配信を行い、理解向上を図ると共に「実践編」を5回開催し、48社266名の方に参加いただきました。

支部活動として、7月には中部支部が岐阜車体工業に於いてカーボンニュートラルの勉強会を実施し、支部会員26社、75名という多数の方に参加いただきました。講義形式での勉強会に加え、工場での動力を使わない「からくり」な

どの取組みの紹介など有意義な勉強会となりました。

今後もロードマップの推進に向けて、このような勉強会の実施や効果的な情報提供などに取り組んでいきますので、継続した活動をよろしくお願いします。

次に「活性化活動の推進」としては、今年5月のコロナ5類移行を受け現地現物、対面での活動が再開され、つい先日、現地現物による技能系社員研修をトヨタ車体で開催。全国各地から12名の方に参加いただき、その場に私も参加させていただきました。

受講者の皆様からは安全の研修などは「理屈で解っていても、身をもって体験できたことがとても効果的であった。ただ作業をするのではなく考える大切さを学べた」という声をいただいております。

また、このような「ご縁」が、この後の横の大事な繋がりとなり、会員相互の連携が更に深まっていくことが当会にとっても大事なことだと考えています。

以上のように、現時点で事業計画は、概ね計画どおり進捗していると判断しております。

下期も継続して事業計画を推進してまいりますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、冒頭でも少し触れましたが、本日は「ジャパンモビリティショー」の開催日で、「乗りたい未来を、探しにいこう！」をテーマに11月5日まで開催されます。

当会も「東展示場 屋外」にて合同出展をしておりますので足を運んでいただけますようお願いします。

最後に会員各位の益々のご発展と、ご健勝を祈念いたしまして、開会の挨拶に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



受付



増井会長挨拶



矢野副会長による乾杯



会長挨拶後の懇親会

ジャパンモビリティショー2023※に出展 働くくるまが大集合!

※旧：東京モーターショー



日本自動車車体工業会は、10月25日～11月5日(プレスデー含)の12日間、東京ビッグサイトで開催された「ジャパンモビリティショー2023」に出展した。

前回2019年は青海展示棟屋内であったが、今回は2017年同様に東展示棟屋外エリアに合同展示ブースを設置した。

働くくるまが大集合！ 会員10社10台を展示し、MCによる出展車両紹介や展示車両によるデモンストレーションを1日5回行った。またブース中央の壁にはパネル展示し、正会員211社(9月末時点の会員数)の社名と主要製品の紹介、安全・環境の取組活動から生まれたJABIAマーク付ステッカーのPRを行った。さらにブース中央の大型モニターでは当会の紹介、トレーラの安全啓発・点検整備、架装物・車体ものづくり、会員7社のPR等のビデオ放映を1日5回実施するとともに、当ウェブサイト以案内するQRカードの配布等を通じて、当工業会の認知度の向上ならびに会員会社の紹介と働くくるまの紹介を行った。

さらにブース中央には小学生以下のお子様を対象にしたJABIAミニ四駆レースを開催した。会員5社のPRパネルに囲まれた国内最大級のサーキットを設置し、抽選で当選したお子様には働くくるまの形をした白いボデーに自身で思い思いのペイントを施してレースし、そのボデーを記念にプレゼントする企画を実施した。週末には大勢の家族連れで賑わい、天候にも恵まれて笑顔の絶えない大盛況のイベントとなった。

また、日本自動車部品工業会とのコラボ企画「JMSスタートアップフューチャーファクトリー(スタートアップ探検ツアー)」では、5つのテーマ(防災、少子高齢化、地域創生、環境・カーボンオフセット、ウェルビーイング)で出展している100社の見学などを実施した。



天候にも恵まれて屋外展示場も連日賑わった



正会員パネル展示



ブース中央には大型モニターとミニ四駆サーキット

MCによる出展車両紹介や展示車両によるデモンストレーション



極東開発工業(株)



日本フルハーフ(株)



自動車精工(株)



東邦車輛(株)



トレーラーハウスデベロップメント(株)



日本トレックス(株)



(株)花見台自動車



(株)浜名ワークス



(株)矢野特殊自動車



山田車体工業(株)



MCによる出展車両紹介



大型モニターでも上映

JABIAミニ四駆レースを開催



働くくるまの形をした白いボデーに思い思いのペイントを施す



週末には大勢の家族連れで賑わい、大盛況

講演会を開催

国内商用車市場動向と業界を取り巻く環境

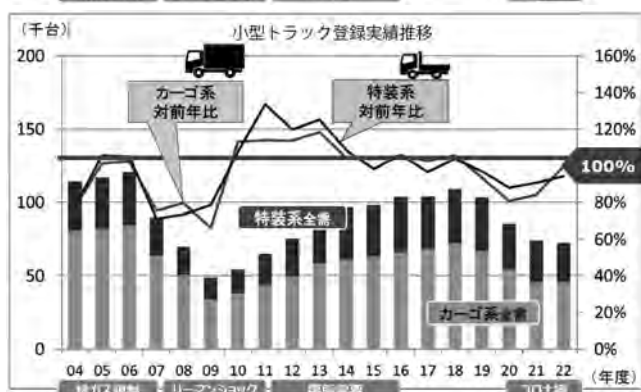
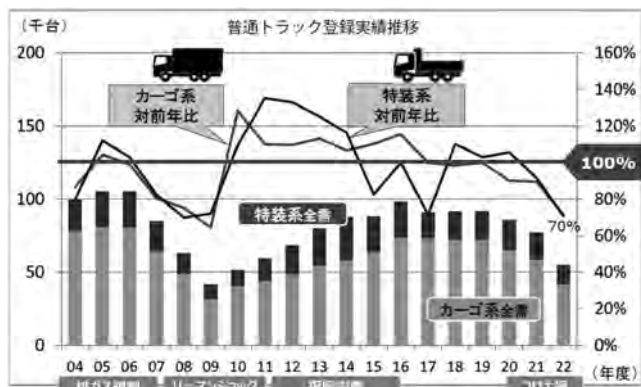
2023年10月19日、日本自動車会館「くるまプラザ」において、いすゞ自動車(株)GR国内商品政策部長・若村泰弘氏を招いて、「国内商用車市場動向と業界を取り巻く環境」のテーマで講演会を開催し、大変多くの会員が参加した。

いすゞ自動車株式会社
GR国内商品政策部長
若村 泰弘 氏



需要動向

普通トラックは、2022年度は前年度比3割減。小型トラックは2020年度以降、主にサプライチェーンの混乱等により生産・供給に影響が発生してきたが、2022年度は前年度並みとなった。



2023年度、いすゞ自動車としては、中型車のフォワード、大型車のギガをモデルチェンジ、シャシの安定供給に努めている。

業界を取り巻く環境

■カーボンニュートラルに向けた各国の施策

- 菅前総理が、所信表明で2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指すと明言(2020年10月)
- 「気候変動サミット」で2030年温室効果ガス削減目標を2013年比▲46%に引き上げ(2021年4月)
- 「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定(2021年6月)
- 合成燃料の商用化前倒しを検討(2023年5月)
- 水素社会の実現に向けた取組みを加速させるため水素基本戦略を改定(2023年6月)

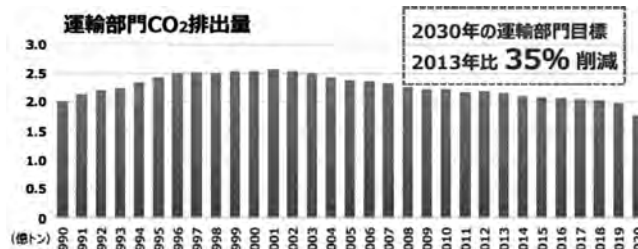
日本

- 欧州委員会が「Fit for 55」を公表
- 2035年までに乗用車/小型商用車の全新車販売のZEV(Zeo Emission Vehicle)化を目指す(2021年7月)
- 例外で合成燃料を使う車の販売を容認(2023年3月)
- ※ 大型商用車:2030年までにZEV8万台の目標が別途掲げられている
- 英国はガソリン車販売禁止を2035年まで延期(2023年9月)
- 乗用車と軽量トラックの新車販売台数に占めるZEVを、2030年までに50%以上とする目標を盛り込んだ大統領令に署名(2021年8月)
- ※ 大型トラック:カリフォルニア州は2045年までに全新車販売をZEV化の目標が別途掲げられている(他11州も追従の動き)
- インフレ抑制法が成立(2022年8月)
- GHG Phase3の公表(2027年施行)

欧州

米国

商用車に求められる要件



出典: 日本の温室効果ガス排出量データ(1990~2020年度)確報値 (国立環境研究所)

2030年のCO₂削減目標達成が求められている中、いすゞ自動車ではエンジンを単純に置き換える等の対応ではなく、「使い勝手の良さ」と「経済合理性」も成立した製品を提供することが重要だと考えている



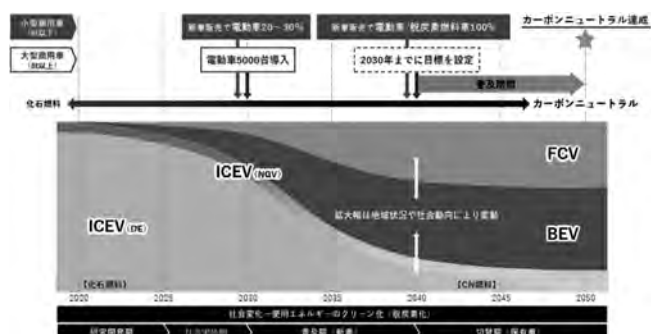
いすゞのカーボンニュートラル戦略

商用車における「カーボンニュートラル」達成に向けて三本柱でCO₂削減に取り組んでいる。

右記の図は燃料の「貯蔵効率」と商用車への活用性を示している。商用車は使われ方が多岐にわたり、架装も異なるため、用途に応じた最適動力源の検討が必要。



いすゞのカーボンニュートラルへのロードマップ



カーボンニュートラルの達成手段を電動車のみに絞らず、EV、FCV、NGV、高効率内燃機関等すべての動力源の可能性を追求しCO2を減らす技術を鋭意開発していく。

EV

- 一日あたりの走行距離が100km以下の車両が半数以上を占める小型トラックにおいて、電動化への第一歩としてBEV(バッテリー固定式)を投入
- ELF EVは、ディーゼル車と同じように様々な架装に対応することが可能。EVとディーゼル車が併用されるEVトラックの黎明期においては、独自のレイアウトよりも併用できる使い勝手を優先
- 商用EVには、乗用EVとは異なる使われ方や課題が存在



EV導入支援のトータルソリューション

- 既存運行情報からのEV最適導入計画
- 運行に伴う電気代分析/CO2削減効果分析
- 充電器の選定・調査、施工手配、アフターまでワンストップで提供
- 安定稼働、運行管理と充電マネジメントサポート

LNG/CNG

- 低CO2で埋蔵量が豊富な液化天然ガス(LNG)、圧縮天然ガス(CNG)自動車を開発

	LNG	CNG
利用形態	極低温(-162℃)に冷却して液化し、搬送ならびに貯蔵する気化させて利用	気体のまま圧縮し、搬送ならびに貯蔵する。減圧して使用
貯蔵	断熱容器が必要。入熱により徐々に気化してしまうので長期保管が困難	耐圧容器が必要
貯蔵時容積	液化した状態では1/600	20MPaに圧縮した場合、1/200
利用方法	大容量の貯蔵・輸送が可能 発電用、産業用	取扱いが容易 家庭用
自動車での利用	長距離走行を行う車両に適する	都市内～都市間まで対応

- バイオガス実証事業への参画
- 天然ガス自動車のさらなる航続距離の延長を目指し、LNGに着目、国のLNGプロジェクトにも参画し、研究・開発を推進
- 北海道でLNG充填ネットワークを構築し実証事業を実施。液化したバイオメタンをLNGに混合して利用

FCV

- 高稼働車両の「長時間・長距離走行」、「短時間燃料供給」にFCVも有効な動力源の一つと考え有効性を検証
- Hondaと2020年1月に燃料電池大型トラックの共同研究を開始し、モニター車を使った公道での実証実験を2023年度中に開始予定

内燃機関向けカーボンニュートラル燃料

- 現場で大量の動力を必要とする車両(消防車、災害救助車、コンクリートポンプ車等)は、内燃機関+カーボンニュートラル燃料が有力な動力源
- e-fuelは、再生可能エネルギー由来の水素と工場の排気などから回収したCO2を合成し製造する燃料。既存の内燃機関・インフラが利用でき、雇用維持の面でも有効

物流効率化に向けた課題と対応策

- ・2024年問題(長時間労働抑制)による「労働環境の変化」
- ・生産年齢人口減による「労働力・ドライバー不足」
- ・荷主からの物流要請により積載効率・労働生産性に影響

- <対応策>
- 共同輸送を支えるダブル連結トラック
- 自動運転の実現に向けた様々な取組み
- コネクテッド技術の活用により、車両のコンディション管理が容易になり、車両の安定稼働に貢献。エコドライブや日報作成支援機能も提供、高度な運行管理で物流の効率化をサポート

カーボンニュートラル対応 第10回

カーボンニュートラル(以下CN)については、2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、CNを目指すことを宣言したことを受け、当会では、CN専門委員会を立ち上げ、2021年8月27日より活動を開始した。会員の皆様からいただいたアンケートの結果に基づき、CNを正しく理解していただくための勉強会の開催、パンフレットの送付(その1~4)、そして車体NEWSでは2021秋号から取組み状況を紹介している。

第10回目は、継続して実施している勉強会の実施状況、セミナー開催、CN専用ホームページ、2022年度CO₂排出量調査、について紹介する。

CN勉強会

1. 入門編

1) 動画配信

CN専用HP → CNの基礎知識 → 勉強会・講演会

<https://www.jabia.or.jp/cn/about/#about04> に4月末から公開中(会員限定)

社内教育等にご活用ください。



- ① 車工会のCN勉強動画【入門編】NO.1 基礎知識
- ② 車工会のCN勉強動画【入門編】NO.2 CNに取り組む必要性
- ③ 車工会のCN勉強動画【入門編】NO.3 CN取組みの進め方

車体工業会の
カーボンニュートラル

基礎知識 編



車体工業会の
カーボンニュートラル

取り組む必要性 編



車体工業会の
カーボンニュートラル

NO.3
取組みの進め方 編



2. 実践編

具体的な取組みの進め方や事例の紹介を織込んだ「実践編」を開催中

< 内容 > 1. CNとは?(振り返り) 1) 世界の動向 2) 働くクルマを取り巻く環境
2. CN推進方策(実践編) 1) 取組みの進め方 2) 具体的な取組み事例

	開催日	開催方法	講師	参加社数
第8回	2023年9月26日(火) 10:00~11:30	オンライン(Zoom)	日産車体(株)安全環境部 磯田部長	2社(5名)
第9回	2023年10月23日(月) 10:00~11:30	オンライン(Zoom)	トヨタ車体(株)プラント環境生技部 カーボンニュートラル企画室 杉山室長	4社(13名)

< 結果 >

・参加者アンケート結果、勉強会の内容は、自社の取組みに活かせるとの回答等全体を通じてご満足いただけている

< 今後の予定 >

今年度以下の通り継続開催していきますので、奮ってご参加ください。

	開催日	開催方法	講師
第10回	2023年12月22日(金) 10:00~11:30	オンライン(Zoom)	日産車体(株)安全環境部 磯田部長

3. CN セミナー の開催

内 容 現場で推進するCNの取組み(生産現場の改善事例)

日 時 11月29日(水) 14:00~15:00

場 所 Web(zoom)

プレゼンター (株)パトライト グローバルマーケティング本部 DX戦略推進部 ウェビナー推進課 村上 敦様

対 象 ①CNの取組みに迷っている方。

②既存設備でスモールスタートできる仕組みが知りたい。

参 加 者 21社52名

今後も会員の皆様に有益なセミナーを企画して参りますので、奮ってご参加ください。

CN専用ホームページ



CN専用ホームページ トップページ

<https://www.jabia.or.jp/cn/>



迅速に、そして分かり易くCNに向けた会員の皆様の活動状況や官公庁、他団体の有益な情報を共有し、諸活動にお役立ていただくために、「CN専用ホームページ」を開設し、2022年12月22日にリリースした。

<2023年度新着情報>

官公庁情報

<https://www.jabia.or.jp/cn/public/>



①補助金・助成金・税制優遇情報

- ・電気の見える化とDR運用で電気代削減を支援する補助金のご案内
- ・2023年度 脱炭素成長型経済構造移行推進対策費 補助金

②生産領域の省エネ情報

- ・中小規模事業者向けの脱炭素経営導入事例集

<今後のアップデート予定>

- ・会員の皆様のCN対応事例を追加掲載
- ・2023年度補正予算による補助金情報

車工会会員の皆様へ

会員にとって有益な情報を継続して発信して参りますので、掲載要望やお気づきの点がございましたら、お気軽に事務局までお問い合わせ下さい。

お問い合わせはこちら
<https://www.jabia.or.jp/cn/contact/>



2022年度CO2排出量調査へのご協力依頼

車体工業会では地球温暖化対策につき、2008年度から日本自動車工業会と一体となった取組みを推進し、経団連の「カーボンニュートラル(CN)行動計画」に基づくCO2排出量調査を実施しております。

2050年のCN達成に向け、脱炭素化の流れが本格化する中で、当会も2030年に向けたCO2排出量の目標値を掲げ、会員の皆様の排出量、省エネ量等の実態把握を行い、エネルギー削減に繋がる活動を進めて参ります。

以下項目の2022年度実績について、ご提出をお願いしておりますので、回答へのご協力をお願いいたします。

<調査項目>

- ① 2022年度実績 CO2調査 ② 2022年度実績 省エネ調査 ③ 省エネ・CO2削減 改善事例

2022年度会員企業の 売上高／従業員数調査まとめ



毎年実施している会員原簿調査結果について本年度調査結果がまとまったので概要を報告する。(正会員対象に2023年7月に調査、売上高は2023年3月に最も近い決算期、従業員数は3月末現在)

1. 売上高・生産台数・従業員数

1) 会員全体

- ・総売上高 5兆6,861億円(前年度比113.1%)
- ・総従業員数 59,512名(前年度比 99.2%)

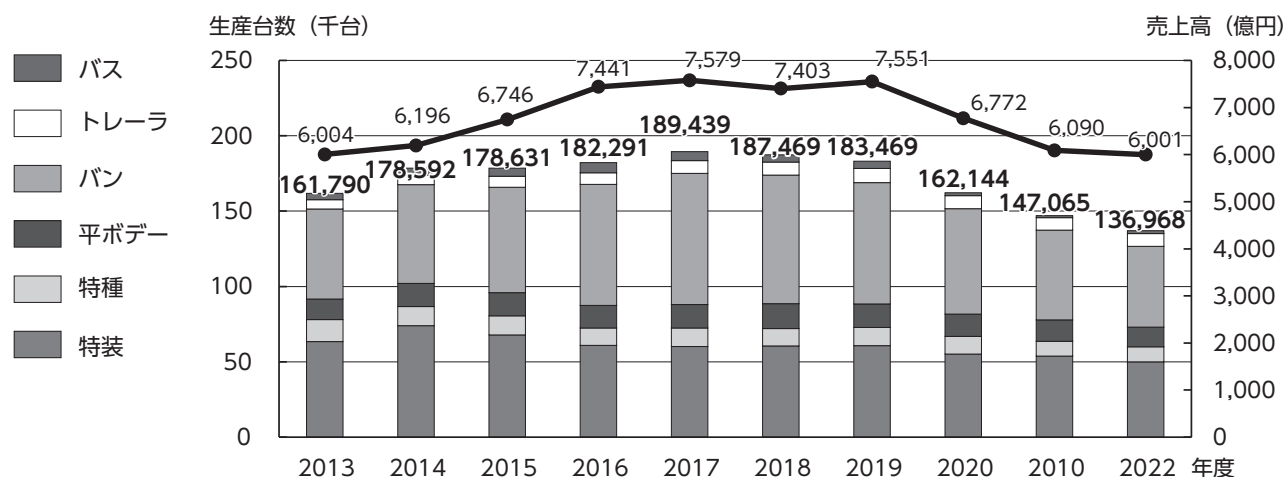
■売上高／生産台数／従業員数(工業会全体)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
調査会員数(社)	184	184	186	188	195	195	198	202	209	211
売上高(億円)	52,124	50,446	54,437	57,166	57,927	61,087	64,457	63,136	50,285	56,861
従業員数(名)	46,056	43,260	52,523	54,492	54,676	58,803	61,022	59,776	59,998	59,512

2) 非量産車製造会社

- ・総売上高 6,001億円(前年度比 98.5%)
- ・総生産台数 136,968台(前年度比 93.1%)
内訳：全ての製品が減少、特にバン、特種、平ボデーの減少が顕著
- ・総従業員数 19,513名(前年度比 99.3%)
内訳：正社員(前年度比 104.1%)、期間工等(前年度比 81.2%)

■売上げ／生産台数(非量産車生産会社)



■従業員数推移(非量産会社)



■突入防止装置技術委員会による新JABIAリベット制度運用実態調査

突入防止装置技術委員会(委員長・岡本斉・新明和工業(株)品質保証部)では、2020年より運用を開始している新JABIAリベット制度の運用実態を調査し、制度上の問題点把握及び制度に関する意見交換を目的に、委員メンバー4名で11月6日(株)岡山溶接所、11月7日須河車体(株)を訪問した。

JABIAリベットの使用状況、台帳管理・リベットの保管状況、品質保証体系、設計&試験について、突入防止装置の規程(保安基準、協定規則)の入手方法等のヒヤリング後、制度に関する意見交換を実施し、両社共に問題なく運用できていること、又意見交換では、試験実施設備に関する困り事を共有した。

制度に関する貴重な意見交換の場となり、同様の調査を継続していく。

■環境委員会「環境基準適合ラベル取得訪問支援活動」を実施

架装物リサイクル分科会(分科会長・新井佳和・極東開発工業(株)技術本部営業技術部部長)は、環境基準適合ラベルを未取得の会員を対象とした訪問支援活動を実施した。

6月29日のカーゴテックジャパン(株)に始まり、10月12日に(株)ノルテ、10月13日に岩崎工業(株)、10月18日に光伸(株)、11月7日に(株)オーティーエスを訪問。

各社共に環境基準適合ラベルの取得に積極的な姿勢で訪問支援を要請され、事前に各種書類の準備や解体マニュアルの素案まで作成されているケースもあり、岩崎工業(株)は訪問支援直後の10月24日に環境基準適合ラベルを取得した。

各会員では訪問支援を受けるまでは環境基準適合ラベル取得はハードルの高いものであると思われていたが、環境基準適合ラベル取得に必要な書類の多くは車工会のHPからダウンロードできることや、年間生産台数が10台以下であれば解体マニュアルの作成は不要であること、各種書類の作成から申請と登録、購入の手順を理解してもらう良い機会となった。



また、事業所の訪問に伴う情報交換も面着で行うことならではの深掘りしたものとなり、WEB会議では相談しにくい困りごとの共有が図れる等、大変有意義な活動となったので今後も継続して行く。

■環境委員会「トラック解体作業見学会並びに意見交換会」を実施

架装物リサイクル分科会(分科会長・新井佳和・極東開発工業(株)技術本部営業技術部部長)では、11月10日に日本トラックリファインパーツ協会(以下JTP)、日本自動車リサイクル機構(同JAERA)及び日本自動車工業会(同自工会)と合同で、40名(経産省2名、JTP・JAERA29名、自工会3名、車工会6名)が参加した解体作業見学会を(株)エコアール(栃木県足利市)で実施した。

当日は衛生車をシャシから分離する作業を見学した。材料ごとの分別のうえ、最終的にタンクは1.2m四方にカットしてスクラップ処理を行うが、連結部材をガスで溶断するため、近くに木材などの可燃性材料が使われている場合は特に気を遣う作業である。その他、乗用車の解体作業では、大型重機ニブラによる分解作業と手作業による細かな分別作業を組み合わせることで、安易なシュレッダー処理ではなく全部再資源化に注力され、また、ニブラやフォークリフトに電動車を導入するなど、作業者や環境への配慮がなされていた。

解体作業見学会後の意見交換会では、ユーザーが解体業者に引き渡す際にタンクの内容物が残留し未洗浄である点や、分別処理に必要な情報をメーカーから得ることの困難さなど活発な意見交換が行われ、製造者と解体者の実情を相互に理解するうえで有意義な機会となった。



JTP新井代表理事の開会挨拶



衛生車の解体作業



ガス溶断でシャシと架装物を分離



クレーンで架装物を取り外し



意見交換会

■中央業務委員会

「管理・監督者層合同研修会」を開催

中央業務委員会(委員長・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、11月2日に「管理・監督者層合同マネジメント研修」を車体工業会会議室で開催し、10社14名が参加した。

本研修は、2015年度に特種部会で実施した「外部講師による合同研修」、2017年度に特種部会と中小会員ネットワーク強化WGメンバーの希望委員会社を対象として実施した「管理監督者層対象のマネジメント合同研修」のあとを受け、2018年度から、中央業務委員会として当会中小会員(特装・特種・トラック・バン・トレーラ各部会)を対象に実施している。

PHP研究所の会場清晃氏を講師に招き、グループ討論を中心に、激動する社会情勢や新型コロナウイルスの影響によって多くの状況が変化してきた中、より良き職場環境を築き総合力発揮のために、管理監督者としてのキャリアを踏まえ、基本的留意事項を再確認し、各自の“マネジメント力&コミュニケーション力向上”のポイントについて学ぶ研修となっている。参加者からは、「部下との接し方や指示の仕方にも注意が必要」「管理監督者として自身の成長も必要」「学んだことを職場で活かすことができる」「参加者と話すことで多くの気づきを得た」「他社事例が参考になった」といった内容のコメントが多く聞かれた。

コロナ禍により2020年度と2021年度はオンラインで実施したが、2022年度から面着開催を再開し同業他社との交流や情報交換もより活発に行われたため、今年度も面着で実施した。上記に加え受講者の反応や理解度がよく分かり研修効果も高いと講師からも支持されていることから、中央業務委員会としては次年度以降も面着開催する方向である。



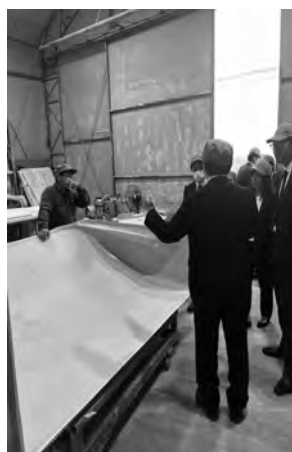
PHP研究所 会場氏による研修

■中小会員ネットワーク強化WG「営業マン勉強会中間報告会及び工場見学会」を実施

中小会員NW強化WG(リーダー・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、2020年に作成・発行した「自動車車体業界の将来ビジョン」の達成にむけ、お客様の困り事への対応力を高めるために営業マンの育成に取り組むこととし、2021年から「営業マン勉強会」を継続開催している。

今年度は、「2024年問題に対し、車体業界が貢献できること」をテーマとし、7月13日のキックオフを皮切りに、12社12名が3つのチームにわかれ、チーム活動を実施中。その中で、中間報告会を10月24日に札幌ボデー工業(株)の工場見学を兼ねて実施した。各チームから現在までのチーム活動状況を報告し、中小会員NW強化WG委員の(株)永光自動車工業木俣社長、札幌ボデー工業(株)堀田社長からアドバイスをいただいた。お二人からは、「車体業界が貢献出来る「新商品」「新サービス」の提案を期待している。」「物流の本質は運ぶことであり、いかに効率化できるかという視点が必要」とのコメントと、今後の検討の切り口をご示唆いただいた。12月の発表会に向けて各チーム論議を継続する。

工場見学会では、主力の冷蔵・冷凍車等の各製造工程等を見学し、メンバーからの多くの質問に丁寧にお答えいただき、参加営業マンにとって大変勉強になる工場見学となった。



FRP製造工程



冷凍車の製造工程

■「現地現物による技能系社員研修」を開催

会員各社の現場力アップ支援活動として、生産現場で人材育成を担うリーダー層を対象に、作業習熟向上のための教育や指導の基本動作の教え方、作業指導の方法について研修を実施している。今年も各社のベテラン担当者が講師になり、10月12～13日にトヨタ車体(株)本社・富士松工場グローバル生産支援センターで9社12名、11月9～10日にトヨタ自動車東日本(株)トヨタ東日本学園で2社3名、11

月13～14日に日産車体(株)IN地区研修センターで2社3名が参加して、安全体感訓練、改善事例の共有、技能研修(溶接、塗装、組立)を基本カリキュラムとして実施した。

トヨタ車体(株)では、安全体感道場で大型施設を使った高所からのぶら下がりや回転体への巻き込まれ、玉掛作業時の手指挟まれ、感電など、普段では実践しにく



高所からのぶら下がり体感訓練

い危険を疑似体感することで安全の大切さを再認識した。からくり研修では、まず基本的な考え方と低コスト・省エネルギーで安全な設備づくりに繋がるからくり改善について理解し、模型による構造紹介や従業員が生み出した実施事例の説明を受けた。また(株)東海特装車の本社安城工場見学も実施し、現場における多くのからくり改善事例の紹介を受けた。技能研修では、全3職種共に講師解説に加えて動画による説明があり、正しく理解し訓練することが出来た。特に、ボデー職種では立ち姿勢での溶接訓練を、塗装職種ではブツ磨き訓練を、組立職種ではボルトナット締付等を体験した。



立ち姿勢でのCO2アーク溶接訓練

トヨタ自動車東日本(株)では、安全道場KYTトレーニング広場で、現場に実際にある様々なモノやツールを見ながら起こりうる災害を自分自身で予測する訓練をし、あらかじめ危険を考えてから行動すれば多くの災害が防げることを再認識すると共に、



からくり改善の製作体験

災害事例の疑似体験をすることで、安全の重要性を再認識した。からくりについては、てこ、滑車、歯車、カム、リンクなどの原理を学んだ後に、からくり製作課題に取り組んだ。最初は戸惑っていた参加者も皆で力を合わせてコミュニケー

ションをとりながら形にしていっていった。技能研修では特に、ボデー職種の溶接訓練では立ち姿勢のままで平面横、平面前後、縦面上下と実践的な訓練を、塗装職種では難しい3次元曲線のシーラー充填訓練を、組立職種では手首や指先の柔軟性を向上させる訓練やトルクレンチ測定訓練等を体験した。



塗装シーラーの充填とヘラによる仕上げ訓練

日産車体(株)では、社内で実際に行われている現場改善研修のダイジェスト版を体験し、湘南工場を見学しながらラインサイドで実際に使用中の改善事例現物の紹介を受け、現場改善研修の理解を深めた。安全体感研修では、実体感以外にもミニチュア体感やVR体感と多くのメニューを体験した。また実物大でなくてもミニチュア



VRによるフォークリフト事故体感訓練



大画面ディスプレイを使った吹き付け塗装訓練

で安全訓練ができることも会員自社での今後の参考になった。技能研修では、特にボデー職種では実溶接する前にデジタルタッチを使ったバーチャル訓練を、塗装職種では大型画面に表示された動くマーカーに合わせて塗装ガンを縦横無尽にスムーズに動かす訓練を、組立職種では実際のライン同様に動くコンベアに載った治具上でボルトナットを組付けする動的訓練を、そして新車試作職種ではスポット打点ゲージ作り等を体験した。参加者は各カリキュラムの間に、積極的に講師とコミュニケーションをとり、日常の悩み事や研修内容の質疑応答を行った。

参加者からは、机上での説明を受ける座学とは異なり、実際に体験・体感することでそれぞれの研修内容の理解を深めることができ、ベテラン講師のノウハウやアドバイス、そして教え方の方法やツールのアイデアを自社へ持ち帰って展開を図りたい、との声が多く聞かれ、大変有意義な研修となった。

■支部連絡会及び工場見学会を実施

支部連絡会(議長・須河進一・須河車体(株)社長)では9月20日、(株)矢野特殊自動車(福岡県新宮町)で支部連絡会及び工場見学会を実施した。

1.支部連絡会

今年度の事業計画の進捗を確認し、本部からは車体業界の最近の動き、CNについての取組み状況を報告した。法令に対する情報交換や中部支部のCN勉強会を交えた工場見学会、支部間の交流会等の話題を契機に、活発な意見交換となり有益な連絡会となった。

2.工場見学会

同社は2022年に会社創業100周年を迎え、中期ビジョンとして「異次元の生産性と働きがい」を掲げ、全社一丸となって進めている。

当日は大型ウィング車、タンクローリ等の製造ラインを見学、塗装ブースの新設、工場内のエアコン・空調服の導入、安全対策機械等、生産性向上・コスト低減と安全性の追求や、お客様への商品説明用展示車の工夫等を紹介いただいた。

また見学後の意見交換会ではCNへの取組み、設備・治工具の導入事例、人材採用の状況についての説明もあり大変有意義な見学会であった。



商品説明用展示車を見学



CN:新設塗装ブース、LPG使用料半減



最終検査場:一人5-6時間で1台を検査

部会だより

NEWS+FLASH

特装部会

■特装車メンテナンスニュース発行

サービス委員会(委員長・石田和雄・新明和オートエンジニアリング(株)技術情報部部長)は、2023年12月に特装メンテナンスニュースNo.57(労働安全衛生規則改正)を発行した。

今回は、労働安全衛生規則の一部改正について、改正により義務付けられた「昇降設備の設置」、「保護帽の着用」、「テールゲートリフターの操作に係る特別教育」の改正のあらましについて紹介している。



■自動車試験場を見学

特装部会では、ミキサ車技術分科会(主査・上条崇史・カヤバ(株)技術部部長)とダンプ車技術分科会(主査・新井佳和・極東開発工業(株)技術本部営業技術部部長)の合同で、10月17日に5社11名が参加し、埼玉県熊谷市にある自動車技術総合機構 交通安全環境研究所 自動車認証審査部 自動車試験場(以下、自動車試験場)の見学会を実施した。

自動車試験場では、国が定める安全・環境・燃料消費等の基準への適合性について、自動車と装置の審査を実施している。今回、審査に使用している試験設備を見学した。環境性能審査棟、総合試験場(直線路、旋回路、制動路)、安全機能審査棟(最大安定傾斜角度試験等)の設備を見ることがで

きた。

総合試験場では、直線路の前にバンクがあり直線路で速度を出せる工夫がされている。車両にも同乗させていただき、スピード感を体感できた。ABSの制動路はタイル張りとなっており摩擦係数の低い路面で試験できる環境となっていた。また、衝突安全審査棟については、動画での視聴となったが、実際の自動車にダミー人形を搭載し衝突させる、フルラップ衝突、オフセット衝突、ポールを対象とした衝突の試験方法と評価方法について解説いただいた。

認証試験がどのような設備・方法で行われ、そして厳格な審査のもと実施されていることがわかり、とても参考となり有意義なものとなった。



見学にあたり、ご準備、丁寧なご説明をいただき、自動車試験場の皆様に御礼申し上げます。

■清掃車小委員会及び工場見学会を実施

清掃車小委員会(座長・松岡誠・兼松エンジニアリング(株)技術開発部マネージャー)では10月24日～25日に、5社12名が参加し(株)加藤製作所で第2回清掃車小委員会と工場見学会を実施した。

工場見学では、主にクレーン生産ラインを見せていただいた。生産ラインと部品搬入の動線が確立され、工場内外の清掃、整理整頓も行き届いており、品質に対する高い意識等が非常に感じられた。ラフテレーンクレーンは組立ライン中での溶接作業が見られないことに感心させられた。また、オールテレーンクレーンの部品はサイズが大きく搬入できないこともあり、ブーム内製、鋼板を国内最大級の大型プレス機により加工、製作されていた。ブームの伸縮は何段かに格納する必要があるため、寸分の狂いがあったはならなく、その技術の高さにも驚かされた。

質疑応答では、質問に対し丁寧にお答えいただき、大変有意義な工場見学となった。



■ものづくり工場見学会を実施

脱着車キャリア分科会(主査・松下晃久・新明和工業(株)設計部脱着グループ長)と脱着車コンテナ分科会(主査・菅原和博・極東開発工業(株)第二設計課係長)は合同で、11月15日に、会員の知見向上・若手人材育成を目的として、4社16名が参加し、(株)ティセンテクノ本社工場(栃木県上三川町)

を見学した。

見学会では、救助工作車(レスキュー車)など特殊車両の製造工程等について丁寧に紹介いただき、高品質なものづくりを見ることができた。国内では入手困難である特殊な海外製品の入手から販売、補修まで独自のルートを持つる強みを持っていた。更に輸入品を国内基準に適合するように組み込む架装技術は他社にはない技術レベルの高さを感じた。

また、「魅せる工場」をコンセプトに会社の取組みとして地域児童の工場見学受け入れを積極的に実施しており、自社PRに対する姿勢や創意工夫は大変参考になるものであった。

質疑応答では参加者から多くの質問があり、大変有意義な工場見学となった。



(株)ティセンテクノ本社工場

特種部会

■第2回工場見学会を実施

特種部会(部会長・森孝義・中京車体工業(株)社長)では11月16日～17日に、今年度2回目の工場見学会を開催した。15社23名が参加し、(株)イズミ車体製作所、(株)キョーワを見学した。

(株)イズミ車体製作所では、医療防疫車等の5Sの行き届いた製造工程で、各工程における高品質なクルマ作り、作業者の安全を配慮した作業治具、設備を見学することができた。会社概要のプレゼンテーションでは、地域に密着した活動、人材育成、福利厚生の実施等の取り組みをご紹介いただいた。

(株)キョーワでは、活魚運搬車の製造工程を見学し、作業環境を配慮したFRP製品や使用環境上、海水が扱われるため十分な防錆処理等独自の技術を確認することが出来



(株)イズミ車体製作所
医療防疫車製造工程



(株)イズミ車体製作所
馬匹車製造工程

た。高い技術力を活用した新たなチャレンジとして、トレーラタイプのキャンピングカー製造やEV充電スタンド等の新規事業への参画もご紹介いただいた。

参加者にとって、大変参考、勉強となり、質疑応答では、両社共にひとつひとつの質問に丁寧にお答えいただき、大変有意義な工場見学となった。



(株)キョーワ 活魚運搬車
製造工程



(株)キョーワ FRP製造工程

トラック部会

■工場見学会を実施

業務委員会(委員長・近藤匠・名古屋ボデー(株)社長)では、9月1日に12社12名が参加し、(株)大上自動車工業(広島県北広島町)と共立工業(株)(広島県廿日市市)を見学した。

(株)大上自動車工業では、西日本全域、名古屋、岐阜へと広範囲へのサービス展開をしている。現在はチップ運搬をはじめとする林業関連の顧客が増えてメインターゲットとなりつつあり、庫内の床が油圧シリンダーによってスライドする機構「ウォーキングフロア」に力を入れている、この機構を導入することで不整地でも安定した搬出作業や屋内の高さ制限でダンプアップできない場所などにも対応することができる。他にも加工する部材は耐用年数を考えアルミをメインに、シャシの塗装も塩害ガードを標準仕様とするなど、顧客目線での高品質な車両を生産していることが伺えた。



シャシの塗装・架装風景



ウォーキングフロア可動風景

共立工業(株)では若い技術者が多く、工場内の5Sも徹底されている印象が伺えた。近年は社内環境へ力を入れ、計算された空調設備の導入により工場内は夏場でも26～27℃を維持、厳しい作業環境を改善し社員の体調管理を

第一に考え、作業着も若い方の目線に合わせるなど積極的に社員の意見を取り入れる姿勢が伺えた。また、「第二工場の竣工」、軽貨物車の荷台にスラントバックキャンピーを架装する「GRASSHOPPER」など新しいプロジェクトにも力をいれており、2024年春の展開を計画しアウトドアからサービスカーと多角的なアプローチを視野に入れ、現在試作4号機まで製作がされていた。



竣工された第二工場



GRASSHOPPER試作車

■工場見学会を実施

トラック部会(部会長・山田和典・山田車体工業(株)社長)では、11月14日に20社28名が参加し、(株)トランテックス(石川県白山市)を見学した。

(株)トランテックスでは、現在、全体で1,519名の社員が働いており年間生産台数12,000台を目標として稼働をしている。成長戦略としてウイング生産の二拠点化を図り、現在では茨城県古河市の新工場にてメーカー完成車のウイング生産を開始している。

今回の工場見学では森社長よりご挨拶をいただき、社歴や概要などを分かりやすくまとめたPVを鑑賞し、工場を見学した。

部品工場では、ブランクや曲げの加工から溶接、塗装の流れで見学をした。工場内で多くの部材が各工程で姿を変えて完成していく様子は圧巻であり、各工程ごとに安全対策として作業着や保護具の着用見本板などを掲示することで安全衛生管理にも力を入れていることが伺える。

最近様々な取り組みがなされているCN対応においては、社内で電気使用量の分析、データ収集を行い、年間6tのCO2削減を達成。

安全衛生面では2柱リフトや高所リフターの導入により高所作業時の人身事故の抑止など作業員目線での環境づくりも心掛けていることが伺えた、工場見学終了後も質疑応答に快く応じていただき、参加者全員が満足してもらえた内容の見学であった。



■工場見学を実施

技術委員会(委員長・北條実・小平産業(株)技術部課長)では、11月17日に8社8名が参加し、須河車体(株)(京都府宇治田原町)を見学した。

今回は2021年7月に竣工した新工場見学をさせていただいた、須河車体(株)ではボトルカーを主に、その他特装車の架装を得意としている。



特に、工場見学の中では長い歴史の中で培ってきた技術と知識を活かしつつ、新しい技術の導入による作業効率の向上、そして社員目線に合わせた社内の環境作りが感じられた。

2Fオフィスはガラス張りで見通しが良く、清潔感がある印象が伺えるショールームのようだ。こちらでは設計の方々の作業風景を見学させていただいた。CADで作成したアルミの部材データを一度3Dプリンターにて出力し、フッティングを確かめながら本生産に入るといったように、最先端の技術を取り入れて各所クオリティの高さに妥協をしない姿勢が伺えた。

1F製造ラインでは各部門ごとに生産管理、危険予知活動、段階表記された3S改善の表が掲示され、作業者の安全管理から清潔な工場環境の維持などに意識が行き届いていることが感じられた。特に3S活動は一度で終わらず、段階を踏んで改善を続けることでより良い工場環境を作ることを社員全員が意識して取り組んでいる。

さらに、作業レーンでは車両ごとに仕様から必要部材などをタブレットにてオンラインで管理されており、その場で作業内容の確認ができることで作業効率の向上とミスの防止に繋がる作業環境が伺えた、完成車の検査レーンは今回時間が合わず見学ができなかったが超高压の水圧テストとボトルカーの台車格納庫などの耐久テストなど、エンドユーザー目線に立った車両づくりを心掛けていることが感じられる見学会となった。

バス部会

■工場見学会を実施

技術委員会(委員長・岩本好昭・日本フルハーフ(株)開発第一部部长)では、10月13日に10社10名が参加し、日本フルハーフ(株)(神奈川県厚木市)を見学した。

広大な厚木工場の中で約1500名、厚木市上依知地区全体では約1,900名の従業員が従事しており、2017年に

は新舎が竣工し、1F～3Fで溶接から電着塗装までの作業を行っている。

工場内では床に敷かれたラインを沿って



多くのAGVが部材の運搬を行い、使用部材は主にQRコードで管理されており、作業効率の向上と物資の数値管理が徹底されている印象が伺えた。

製造ラインを経て、組みあがった車両は工場内の「箱仕上げ」という工程へ進み、コーキングを施した車両はシャワーテスト場にて水漏れチェック、そして車両測定場にて車両寸法、不具合の最終確認といった一連の厳しいチェックをパスした車両が完成車となる。

地域住民との親睦を深める取り組みとして、5月には従業員の手によって丁寧に植栽された1,000本を超える薔薇が工場の敷地内を彩る「ばら鑑賞会」を行い、遠方からも多くの人が訪れている。



バス部会

■工場見学会を実施

バス部会(部会長・石川哲朗・ジェイ・バス(株)社長)は、9月5日に4社15名が参加し、三菱ふそうバス製造(株)(富山県富山市)と天龍工業(株)(富山県富山市)を見学した。

三菱ふそうバス製造(株)は、大型の路線・観光バスとマイクロバスを生産している。当日はシャシ工程、車体工程、シャシと車体の合体工程、艤装工程を見学した。大きい車体を生産しているのにも関わらず圧迫感がなく5Sの行き届いた工場であった。

またコロナ禍の中、新たなビジネスとして始めたボデープリントも見学した。これは、パソコンで作成した画像をインクジェットでボ



三菱ふそうバス製造意見交換会

デー表面に直接印刷するものであり、フィルムラッピングに対してコスト、納期とも大幅な削減効果があり、見た目も美しいものであった。

意見交換では、CNについてソーラーパネルの設置や電気のクリーンエネルギー化などに取り組んでいるとの紹介があった。

天龍工業(株)は、バス・鉄道・船舶のシートを生産している。当日はシートフレーム工程、アッセンブリー工程を見学したが、見た目は同じでもユーザー毎に違いがあることに驚いた。また付加価値を付けた製品が多いのには感心したが、これはユーザーの声に対するきめ細かな対応(オーダーメイド)を行うことを得意・強味にしていることによるものであり、その結果、バス、鉄道において、高いシェアにつながっているのだと感じた。



ボデープリントを施したバス



天龍工業意見交換会

■塗装技術者向け勉強会を開催

塗装デザイン研究会(委員長・手塚学・ジェイ・バス(株)製造部管理課課長)は、11月16日に大日本塗料(株)小牧事業所研修センター(愛知県小牧市)において、自動車の補修塗装をテーマにした「塗装技術者向け勉強会」を開催した。

本勉強会は少量多品種の塗装をしている会員に役立つ情報を提供する場として、2009年から実施しており、バス部会以外からの会員も含め、16社16名が参加した。

大日本塗料(株)の担当者が講師になり、「自動車補修塗装の基礎的な下地処理(研磨、パテ付け)、上塗り、磨き」について座学及び実習見学を通して学んだ。座



講師によるプラサフ塗装実演

学では、パテ付けやボカシ塗装について分かりやすい図解説明があり、特にパテも攪拌が必要であることや硬化剤は計量が重要であることなどを学んだ。実習見学では、①削り・研磨～プラサフ塗装、②プラサフ研磨～上塗り、③ボカ

シ、④磨きの流れで見学し、講師のテクニックやノウハウ・注意点等を目の前で見ることが出来た。また見学中には随所で講師に質問しアドバイスをもらっている受講者もあり、この勉強会を有効に活用していた。

参加者からは「本来の補修塗装のやり方を知ることができました」、「今後に生かします」等の声が多く、特にボカシのやり方についての反響が最も多く見られ、参加者の現場での直結した課題の技術情報を得ることができ、大変有意義な勉強会であった。



熱心に説明を受ける受講者

小型部会

■学生フォーミュラ日本大会2023を視察

技術委員会(委員長・小林寛・トヨタ自動車東日本(株)第1車両SE部部长)は、9月1日に2社2名が参加し、静岡県小笠山総合運動公園(エコパ)で行われた自動車技術会主催の学生フォーミュラ日本大会2023を視察した。当日は、小型部会会員各社の企業紹介ブースを視察のあと、大会参加経験者のOB及び現役大学生から車検とエンデュランス(約20kmを走行し、走行性能、耐久性、燃費を競う)について説明を受けながら視察した。

今回は77チームがエントリーし、ICV54チーム、EV23チームと、学生フォーミュラの世界でもEV車化が進んでいた。車検においては大学生の入念なチェック、エンデュランス試走では車5台をのうち完走したのはわずか1台であり、“ものづくり”のむずかしさや楽しさを感じた。また企業の紹介ブースには、車好きの学生が多数集っており、また学生フォーミュラに参加する多くが自動車関連メーカーに就職することを聞き、リクルートとしての期待が持てた。

【出席者】

トヨタ自動車東日本(株)部長 小林 寛

日産車体(株)部長 齊藤 淳

事務局2名



車検(ブレーキ)風景



走行風景



トヨタ自動車東日本(株)
企業紹介ブース



日産車体(株) 企業紹介ブース

■工場見学会を実施

小型部会(部会長・濱口昌史・トヨタ自動車東日本(株)取締役)は、11月 24日～25日に5社12名が参加し、トヨタ自動車東日本(株)(宮城県大衡村)の「宮城大衡工場の見学」と「東北を元気にする」活動の視察を実施した。会員にとって貴重な経験と学びがあり、大変有意義な見学会であった。

◇宮城大衡工場の見学

- ・企画・開発・生産までが一体となった「一気通貫現場発信のものづくり」
- ・仕入れ先と生産が連動した「順序生産順序納入」活動
- ・アジャイルに開発し、壊れても自ら直せる 「シンプル・スリム・コンパクト」な設備(内製小型 ロボット、簡易な治具、からくり改善 等)への取り組み
- ・新たな技術への挑戦(AIを活用した検査、自動運転技術を活用した部品運搬車)

などを通じて、ものづくり競争力向上に積極的に取り組まれている。工場見学終了後の質疑では積極的な意見交換がされた。

◇東北を元気に

東日本大震災「語り部ツアー」に参加し、震災当時や、現在の被災地の状況を知ると共にトヨタ自動車東日本(株)が地域と一体となって取り組んでいる異業種企業との相互研鑽活動(盛信冷凍庫(株)・東北モビリティプロジェクト(オンデマンドバス事業@南三陸町)を通じた地域連携・社会貢献の理念と実践に感銘を受けた。



資材部会

■見学会を実施

資材部会(部会長・小澤賢記・ゴールドキング(株)社長)は、11月21日に7社12名が参加し、総務省第二庁舎別館にある産業遺産情報センター(東京都新宿区)を見学した。

同施設は、世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」のインタープリテーション戦略※(2017年11月ユネスコ世界遺産センターに提出)に基づき、「明治日本の産業革命遺産」の8県11市に立地するビジターセンターの中核センターとして各地と連携し、インタープリテーション※戦略を推進している。

※インタープリテーション

自然・文化・歴史(遺産)を分かり易く人々に伝えること。自然についての知識そのものを伝えるだけではなく、その裏側にある「メッセージ」を伝える行為。あるいは、その技能のこと。

調査研究機関としての機能を有し、国内外の産業遺産並

びに産業史の史料収集を積極的に行っており、産業労働や人々の暮らしについての調査研究や広報活動、教育・研修等デジタル文書化などの事業を推進し、情報発信を行っているという。



施設内の展示ゾーンでは「明治日本の産業革命遺産」の

概要、世界遺産として登録されるまでの経緯をパネルで展示。リキッド・ギャラクシーでは、臨場感ある7面の大型ディスプレイを利用したパノラマ映像で、体感型の映像の世界を体験。体感型マルチディスプレイにより、「明治日本の産業革命遺産」の各構成資産や日本各地の産業遺産について写真や動画を活用しながら解説がされた。



中々見ることでできない貴重な資料を解説いただきながら見ることができ、参加者から大変有意義な見学であった旨のお声をいただいた充実した見学会となった。

北海道支部

■合同部会を実施

北海道支部(支部長・上野聡・北海道車体(株)上席本部長)では、9月12日、札幌市内にて16名が参加し、合同部会を開催した。



冒頭、支部長から、何かと業務多忙のところお集まりいただいたお礼と、「車工会関係の生産台数は回復したものの北海道地区は今だ厳しいものがあるが回復する材料はたくさんあるので、一緒に頑張りましょう」との挨拶があり、その後次第に沿って開催された。

部会長報告では、トレーラ部会の池添部会長(日本トレス(株)北海道支店長)より、「生産台数は15%程減少し厳しい状態である」との報告がされた。

懇親会では各社の近況報告がされた。また最近の支部会合は、コロナの影響もあり地方の出席者数が少ないため、もっと魅力ある支部にするために、CN運動も含めて一緒に意見を出し合い検討することで終了した。

中部支部

■中部支部秋季研修会を実施

中部支部(支部長・景井啓之(株)東海特装車社長)は、10月12日～14日、支部会員11社12名が参加し、種子島宇宙センター及び屋久島で研修会を実施した。9月にH-2Aロケット47号機打ち上げに成功した世界一美しい日本最大のロケット発射場JAXA施設ガイドツアーにより日本最先端ロケット開発の高い技術力を学び、はるか遠い宇宙に思いを馳せて未来を考え、翌日の屋久島はあいにくの雨でしたが、はるか昔から力強く生き続ける屋久杉の生命力と神秘的な空間で



自然のパワーを五感で感じ、遥か昔に思い巡らすことができた。遠い南の島で大きな刺激を受け多くを学ぶ機会になった。



■航空自衛隊浜松基地見学会を実施

中部支部(支部長・景井啓之(株)東海特装車社長)は、11月7日、支部会員21社31名が参加し、航空自衛隊浜松基地(静岡県浜松市)に於いて「基地内特別許可見学会」を実施した。



当基地は航空自衛隊発祥の地として現在でも航空自衛隊における教育の中心地としての役割を担っている。通常は立ち入りできない格納庫の機体の前でパイロットに質問し戦闘機飛行の凄さや操縦の苦労など聞き、資料館や広報館では数多くの航空機や歴史的に貴重な展示などを通し多くを学ぶことができた。

全員がとても満足というアンケート結果で非常に有意義で貴重な体験ができた特別な見学会となった。



近畿支部

■研修会を実施

近畿支部(支部長・須河進一・須河車体(株)社長)は、11月10日～11日に16社21名が参加し、日本フルハーフ(株)厚木本社工場(神奈川県厚木市)で研修会を実施した。

研修会では、日本最大手トラックボデー架装メーカーとしてラインが形成されており当然ながら分単位のタクトタイムでボデー生産がされており、ライン工程においてロスの無い生産ライン、工程内検査員体制が確立されており、また最終検査においても、運輸局と同等の設備を導入されている等トップメーカーのとしての生産、品質に対する会社全体の姿勢を垣間見る事ができました。参加者から生産性、段取り等一つひとつに無駄がなく洗練された作業ということでもかなり勉強になったという意見がありました。翌日は箱根近辺を散策し、有意義な研修会となった。



中国支部

■秋季研修会を実施

中国支部(支部長・瀬川昌也・共立工業(株)社長)では、10月5日、6日の二日間で13社20名が参加し、(株)東海特装車(愛知県安城市)で研修会を実施した。

研修会では、(株)東海特装車安城工場の生産ラインで行われている職場毎の改善活動や新たな商品への取組みなどを見学した。その後、支部間の情報交換会として中部支部役員8名と会食を交えて会員相互の懇親を深めることができた。

また、自動車産業の歴史に触れるためトヨタ産業技術記念館やトヨタ博物館などを訪れた。



四国支部

■研修会を実施

四国支部(支部長・藤田健一郎・フジタ自動車工業(株)社長)では、11月17日、10社16名が参加し、(株)矢野特殊自動車(福岡県新宮町)で研修会を実施した。

研修会では、(株)矢野特殊自動車本社工場で多種多様な車体架装の生産工程を見学し、会社概要説明のプレゼンテーションではカーボンニュートラルの取組み等をご紹介いただき参加者にとっては大変参考となるものであった。

また、質疑応答では、矢野社長自ら一つひとつの質問に丁寧にお答えいただき、大変有意義な工場見学となった。



九州支部

■「支部秋季研修会」を開催

九州支部(支部長・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、11月14日から15日で18社24名が参加し、「秋季研修会」を開催した。

今回は支部会員工場の愛宕自動車工業(株)(大分県中津市)と極東開発工業(株)福岡工場(福岡県飯塚市)の2か所を研修した。

愛宕自動車工業(株)ではカーボンニュートラルなどの環境負荷軽減に対応した製品の製造過程等を見学し、極東開発工業(株)福岡工場では機能的にまとめられた各製品工場などを見学した。参加会員一同、両社の高い技術力や会社の姿勢などに感銘し、今後の各社の製品製作の参考となる知見を高めることができた。

また会員相互の親交を深めることができ、大変有意義な研修会となった。



道路運送車両の保安基準及び装置型式指定規則の一部を改正する省令及び道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部を改正する告示について

国土交通省

【改正概要】

- (1) 道路運送車両の保安基準及び道路運送車両の保安基準の細目を定める告示の一部改正

道路運送車両法(昭和26年法律第185号。以下「法」という。)第3章の規定に基づく保安基準について、以下の改正を行うほか、所要の改正を行う。

- ① 後面衝突警告表示灯について、二輪自動車及び二輪の一般原動機付自転車への備付けを可能とし、備えた場合の要件を規定する。

【適用日】 令和5年9月24日

- ② タイヤについて、新たに導入された摩耗状態のウェットグリップの規制値並びに強化された転がり抵抗及び新品時のウェットグリップの規制値に適合しなければならないこととする。

【適用日】

・ 乗用車用等のタイヤ

新型車：2026(令和8)年7月7日

継続生産車：2027(令和9)年7月7日

・ 商用車用等のタイヤ

新型車：2028(令和10)年9月1日

継続生産車：2029(令和11)年9月1日

- ③ 後方視界看視装置（バックカメラシステム）について、装置単位での認証を可能とする技術基準を設ける。

【適用日】 2023(令和5)年9月22日

- ④ 車両後面に設置するカメラ等について、安全上支障が無く車体から突出するものについては両寸法に含めないこととする。

【適用日】 2023(令和5)年10月1日

- (2) 装置型式指定規則の一部改正

以下の改正を行うほか、所要の改正を行う。

- ① 法第75条の3第1項の規定により型式指定の対象となる特定装置の種類に、後退時車両直後確認装置の後方視界看視装置を追加する。
- ② 協定規則の改訂に伴い、国内に受け入れる協定規則の番号を改める。

- (3) 道路運送車両の保安基準第二章及び第三章の規定の適用関係の整理のため必要な事項を定める告示の一部改正

転がり抵抗及び新品時のウェットグリップの規制値が強化された改正に伴う、商用車用タイヤの過渡規定を設けるほか、所要の改正を行う。

- (4) その他の関係告示の一部改正

上記のほか、関係する告示の規定について所要の改正を行う。

「装置型式指定実施要領について（依命通達）」等の一部改正について

国土交通省

【改正概要】

- (1) 装置型式指定実施要領の一部改正

- ① 後方視界看視装置が装置型式指定の対象となることに伴い、当該装置に係る装置型式指定基準を追加します。

- ② 以下の協定規則の改訂に伴い、装置型式指定基準において直接引用している協定規則番号の改正を行います。

- ・ 「タイヤの車外騒音・ウェット路面上の摩擦力・転がり抵抗に係る協定規則(第117号)」
- ・ 「CNG・LNG自動車に係る協定規則(第110号)」

- (2) 「型式認証実施要領」の一部改正

- ① 自動車型式指定規則第三条第一項の規定による独立行政法人自動車技術総合機構に提示する自動車に係る走行の要件並びに同条第四項に規定する国土交通大臣が定める自動車及び国土交通大臣が定める書面(昭和58年運輸省告示第331号)の改正に伴い、二輪自動車における長距離走行実施要領等を改正します。

- ② 「後方視界看視装置」が装置型式指定の対象となることに伴い、当該装置に係る諸元表の記載要領を改正します。

- (3) 「共通構造部型式指定実施要領」及び「多仕様自動車型式指定実施要領」の一部改正

- ・ 「後方視界看視装置」が装置型式指定の対象となることに伴い、当該装置に係る特定共通構造部の範囲を記載する様式等を改正します。

- (4) 「輸入自動車特別取扱制度」の一部改正

- ・ 「後方視界看視装置」が装置型式指定の対象となることに伴い、当該装置に係る諸元表の記載要領を改正します。

- (5) その他所要の改正を行う。

国土交通省組織令の一部を改正する政令の施行に伴う自動車局関係通達の一部改正について

国土交通省

【改正概要】

車工会あて通達等について、国自総第193号(別添)の別表の中段にある言葉を自動車局から物流・自動車局と読み替える。

「自動車製作者等証明書の発行について」の一部改正について及び「自動車製作者等が行う走行試験に対する臨時運行許可等について」の一部改正について

国土交通省

【改正概要】

「製造過程自動車の型式認定に関する規程」の廃止(令和2年国土交通省告示第1331号)及び国土交通省組織令の一部を改正する政令(令和5年政令第278号)の施行に伴う改正。

自動車点検基準等の一部を改正する省令及び道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部を改正する告示について

国土交通省

【改正概要】

(1) 自動車点検基準(昭和26年運輸省令第70号)及び自動車の点検及び整備に関する手引(平成19年国土交通省告示第317号)の一部改正

以下の改正を行うほか、所要の改正を行う。

① 車両法第48条第1項の規定に基づく定期点検整備における点検項目として、ガス容器等に係る損傷の確認を追加する。

② 車両法第57条の規定に基づき公表されている自動車の点検及び整備に関する手引において、①で追加する項目の点検の実施方法の例として、目視等による方法を規定する。

(2) 装置型式指定規則(平成10年運輸省令第66号)の一部改正

以下の改正を行うほか、所要の改正を行う。

① 車両法第75条の3第1項の規定により型式指定の対象となる特定装置の種類に、ガス容器等を追加する。

② 車両法第75条の3第8項の規定により型式指定を受けたものとみなす特定装置に、協定規則※第110号、第134号及び第146号に基づき認定されたガス容器等を追加する。

※ 「車両並びに車両への取付け又は車両における使用が可能な装置及び部品に係る調和された技術上の国際連合規則の諸採択並びにこれらの国際連合の諸規則に基づいて行われる認定の相互承認のための条件に関する協定」に基づく規則

(3) 道路運送車両法関係手数料規則(平成28年国土交通省令第17号)の一部改正

道路運送車両法関係手数料令(昭和26年政令第255号)第3条第2項の規定に基づき、ガス容器等の型式について指定を申請する者が、車両法第3章の規定に基づく保安基準(以下単に「保安基準」という。)への適合性についての審査を受けるに際して独立行政法人自動車技術総合機構に納付すべき手数料の額を、実費を勘案して定める。

(4) 道路運送車両の保安基準の細目を定める告示(平成14年国土交通省告示第619号)の一部改正

保安基準について、継続検査時等に、高圧法体系下で行われる容器検査等(容器検査、容器再検査、附属品検査及び附属品再検査をいう。)により担保される安全性と同等の安全性の担保が可能となる技術基準等を規定するほか、所要の改正を行う。

(5) 道路運送車両法施行規則第三十六条第十四項等に基づき国土交通大臣が指定する自動車及び基準(平成19年国土交通省告示第857号)の一部改正

継続検査等を申請する者は、自動車技術総合機構及び軽自動車検査協会に対し、当該申請に係る自動車の備えるガス容器等が保安基準に適合するものであることを証する書面を提出しなければならない旨を規定する。

(6) その他の関係告示の一部改正

上記のほか、関係する告示について所要の改正を行う。

審査事務規程の一部改正について(第51次改正)

自動車技術総合機構

【改正概要】

(1) 自動車の検査等関係

① 道路運送車両の保安基準の細目を定める告示(平成14年国土交通省告示第619号)等の一部改正に伴う改正

○ 歩行者保護に係る協定規則へARHSS(Adjustable Ride Height Suspension System)を備えた自動車に対する基準及び試験方法が追加されたことに伴い、審査方法等を規定します。[7-33]

○ 乗車定員10人の乗用車に適用する運転者の視野に係

る基準を変更します。[6-41、7-41、8-41]

- 乗車定員10人未満の乗用車及び車両総重量3.5t以下の貨物車には、運転者からの死角となる当該自動車の直前及び側面に近接する歩行者や障害物を確認できるよう、ミラー、カメラ又は検知装置を備えなければならないものとして、審査方法等を規定します。[7-107、8-107]

②OBD検査に係る取扱い等の新設

OBD検査(※)の対象となる自動車及び審査方法等を規定します。[4-10、9-15 等]

- ※目視により判断できない電子制御装置の故障等に対応するため、検査用スキャンツールを用いて車載式故障診断装置の診断結果を読み出し、特定の情報等の記録状況を検査すること。

③その他、審査方法の明確化、書きぶりの適正化等の所要の改正を行います。

(2)自動車の型式の指定等関係

今回は該当なし

審査事務規程の一部改正について(第52次改正)

自動車技術総合機構

【改正概要】

(1)自動車の検査等関係

- ①道路運送車両の保安基準の細目を定める告示(平成14年国土交通省告示第619号)等の一部改正に伴う改正

- ・自動車の長さ、幅及び高さを測定する際にその対象から除外する項目として、前面及び後面の周辺監視装置を追加する。
- ・自動車の外側に突出する周辺監視装置について、突出量の測定方法を規定する。

(2)自動車の型式の指定等関係

今回該当なし。

審査事務規程の一部改正について(第53次改正)

自動車技術総合機構

【改正概要】

道路運送車両の保安基準の細目を定める告示(平成14年国土交通省告示第619号)等の一部改正に伴い、「審査事務規程」(平成28年4月1日規程第2号)等について一部改正を行う。

1. 「審査事務規程」(平成28年4月1日規程第2号)別添1(試験規程(TRIAS))の新規追加及び一部改正を行う。

(1)細目告示に新たに採択された協定規則等に対応したTRIASの新規追加(4項目)

(2)細目告示に既に採用されている協定規則の改訂に伴う一部改正(13項目)

(3)付表等について修正および項目の追加等(22項目)

2. その他、項ずれによる修正等所要の改正。

軽自動車検査協会検査事務規程(昭和48年9月

26日協会規程第16号)の一部改正について

軽自動車検査協会

【改正概要】

- (1)OBD検査の導入に伴う改正等「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部を改正する告示(令和2年8月5日付)」及び独立行政法人自動車技術総合機構審査事務規程の第51次改正を踏まえ、OBD検査の検査方法等を新設し、その他の所要の改正を行います。

(2)敷地等における秩序維持の明確化 公正かつ確実な検査業務を行うための環境を確保していく観点から、敷地等における秩序維持に関する運用について、明確化します。

- (3)その他、書きぶりの適正化等所要の改正

会員情報

■入会	準会員	(株)アサイマーキングシステム 代表取締役 浅井 大輔 〒215-0033 神奈川県川崎市麻生区栗木2-3-13 TEL. 044-980-1600 【主要製品】 各種3M製グラフィックス、フィルム類、ガラス用機能フィルム、 車両用反射材 他 【所属部会】 資材部会
■業務移管	準会員	フォルシアクラリオン・エレクトロニクス(株) → クラリオンライフサイクルソリューションズ(株) (2024年1月以降) 代表取締役社長 田中 遥 本社所在地・電話番号は変更ありません。

尾崎 善三氏、高橋 幸也氏 卓越した技能者(現代の名工)を受賞

尾崎善三氏(トヨタ車体株)は自動車部品機械加工工で主に自動車部品のプレス金型製作における機械加工に従事。優れた能力を発揮し、永きに渡り職場を牽引してきた。汎用加工機で培ったノウハウ、カンコツ※を自動化に取り入れ、海外子会社にも展開、指導力を発揮するなど大きな実績をあげている。更に精度向上、業務効率化を行いながら業務改善を行っており、機械加工分野の代表的な高技術者である。

高橋幸也氏(トヨタ車体株)は自動車ボデー職種における復元技能に優れ、不具合の検出力と修正技能に卓越している。鉄板の亀裂、皺、割れ、歪等の高度な修正が出来る技能を有し、それらの技能を使いこなし、多くの工程・設備改善をあげた。近年は、より幅広い視野に立った工程/設備改善・デジタル化にも着手している

両者とも、優れた指導力を発揮して後進育成を行い、多数の国家技能検定合格者を育てるなど技能伝承の面でも活躍していることが認められ、11月13日に厚生労働大臣より2023年度の「卓越した技能者(現代の名工)」として表彰された。心よりお慶び申し上げます。

※カンコツ…マニュアル化しにくい、熟練の技や経験で培われた方法のこと



向かって左側が尾崎 善三氏、
右側が高橋 幸也氏

架装物の安全点検制度

架装物の定期点検で『SDGs』に貢献



環境にやさしい未来をつくる働く車

未来の子ども達に美しい地球を

のこすため「豊かな環境保全」には

定期点検整備が必要です。

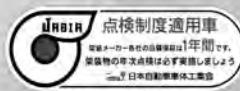
定期点検整備を実施した事を証明する

『架装物年次点検【済】』ステッカーです。

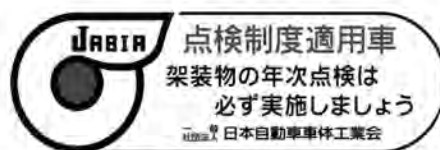
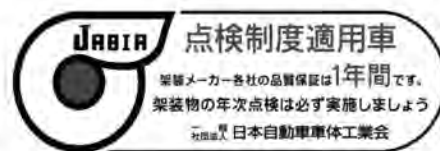
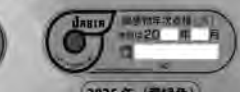
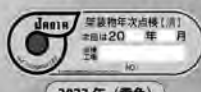


安全・安心・信頼の証 ステッカー!!

※ 新車時 『点検制度適用車』ステッカー



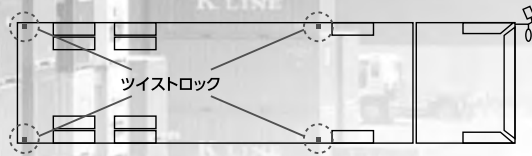
※ 点検時 『架装物年次点検【済】』ステッカー



一般社団法人
日本自動車車体工業会
中央技術委員会
点検整備推進分科会

ワゴーロック

ツイストロックは、コンテナの四隅に設けられた隅金具に差し込む形で固定する緊締金具で、小さいながらもコンテナの安全輸送を支える重要な部品です。「ワゴーロック」は日本製の堅牢で高品質なツイストロックとして、長年にわたり、多くのユーザーの信頼を得ております。



※「ワゴーロック」は弊社の商品名となります。



A150型

下方収納式ツイストロック (特許取得済)

- 重量=6.6kg
- 収納=床下150mm
- ボールプランジャー内蔵

A141型

下方収納式ツイストロック
(特許取得済)

- トッププレート(9mm)付きで組み付けやすい
- 重量=7.1kg
- 収納=プレート下141mm
- ボールプランジャー内蔵
- ロック・アンロックのぞき穴付



収納位置

突き出し位置

ロック状態

安心の
日本製

量産対応
OK

全国へ
発送

1個から
対応

固定式
収納式

JIS
適合品

確かな技術、安心の品質。

ツイストロック開発・製造・販売

 **ワゴー株式会社**

〒470-0207 愛知県みよし市福谷町根浦27番地1134 電話 0561-36-0005 (代) FAX 0561-36-0600

詳しい製品情報は弊社Webサイトをご覧ください。

Creating the Future with Twist Locks.

<http://wago-web.com/>



塗装で車両の価値UP!! 意匠性の付与・メンテナンスに!!

意匠性と耐久性を付与!

BEOLINER ベッドライナー ビースト

BEAST



ボデーやバンパーに!



意匠性や耐久性を付与!

意匠性と耐久性

オリジナリティあふれる塗装

お好みの色相に調色可能



動画は
こちら

下回りを錆から護る!

ハイアートCBエコ

防錆コート



※JIS K5600.7.1 塩水噴霧試験(1000時間)



足回りが錆でこうなる前に



しっかりガード!!

高い防錆力

耐チップング性

防振・防音効果



動画は
こちら

荷台木部（アピトン・ベニヤ等）を護る!

ウッドプロテクト

木部の劣化を防ぐ!!

圧倒的低コスト!!

施工は簡単!!



Before



After



動画は
こちら



イサム塗料株式会社

札幌・仙台・東京・名古屋・滋賀・大阪・広島・福岡



イサム塗料株式会社
公式チャンネルはこちら



9月

	第2回広報委員会 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況の共有と論議 ② 車体NEWS秋号の校正・編集	
1日	トラック部会／第2回業務委員会(広島)	① ㈱大上自動車工業、共立工業㈱の工場見学を実施 ② 事業計画の進捗状況の共有・論議	▶P.17
	小型部会／技術委員会(静岡)	自動車技術会主催の学生フォーミュラ全日本大会2023視察	▶P.19
5日	トレーラ部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 各県トラック協会講習会実施結果報告(4県) ② 研修資料の訂正内容検討及び追加	
	バス部会／見学会(富山)	三菱ふそうバス製造㈱と天龍工業㈱を見学	▶P.18
6日	トレーラ部会／製品安全委員会 (当会会議室+Web会議)	① 整備事業者へのトレーラ整備作業の周知活動論議 ② 適正な交換部品使用の広告内容確認	
8日	中小会員NW強化WG(当会会議室)	① 事業計画の進捗状況の共有・論議 ② 人材確保のための施策論議	
12日	バス部会／ ワンマン機器小委員会(Web会議)	JABIA規格「バス乗客降車台装置」改正内容の意見交換	
13日	バス部会／技術委員会・ワンマン機器 小委員会合同会議(Web会議)	① 2023年度新規テーマの活動確認 ② 協定規則、法改正動向の共有と対応 ③ 他団体活動の共有	
14日	中央技術委員会／ CS/SU&コネクテッド検討WG (Web会議)	① 自工会内検討結果の共有 ② 当WG 基本方針の整理 ③ 自工会案に対する課題検討 ④ 代表者会議に向けた車工会見解まとめ	
	環境委員会／架装物リサイクル分科会 (当会会議室+Web会議)	① ホワイトラベル未取得会員向け 取得講習会の開催検討 ② 環境ラベル取得支援の訪問スケジュール、説明資料を共有	
	特装部会／ 業務委員会(当会会議室+Web会議)	① 2023年度事業計画の推進状況について共有 ② 第2回中央業務委員会(10/6開催)の内容について議論	
19日	中央技術委員会／ 第2回点検整備推進分科会(Web会議)	① 架装物の安全点検制度運用状況の共有 ② 各部会の活動状況の共有・論議 ③ 制度の普及と点検実施率向上策意見交換	
	環境委員会／工場環境分科会 (当会会議室+Web会議)	① CO ₂ 、VOC排出量調査結果を共有 ② CN推進WG進捗状況の共有・論議	
20日	特装部会／技術委員会(当会会議室)	① 2023年度事業計画の進捗と課題対応について意見交換 ② 2030年度CN目標達成に向けた今年度の活動について議論 ③ 2023年度技術発表会テーマについて	
	第2回支部連絡会(福岡)	① ㈱矢野特殊自動車工場見学を実施 ② 支部事業活動の共有化と良いとこどり活動について論議 ③ 車体業界の動き及び地域特有情報の共有	▶P.15
21日	バン部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 中小会員支援状況の中央業務委員会報告内容共有・論議 ② CN対応の今後の進め方論議	
22日	トラック部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度基準化・標準化進捗報告・論議 ② 中央技術委員会情報の共有	
	特種部会／合同委員会(北海道)	① 事業計画の進捗状況の共有・論議 ② 各社のCN対応事例の共有	
25日	商用車ショー企画委員会兼出展社会議 (当会会議室+Web会議)	① 展示レイアウト、集客イベント、PRツール等の合意 ② 会期中運営方法の確認	
26日	CN勉強会第8回実践編(Web会議)	2社5名が参加し、以下勉強会を開催 (講師：日産車体㈱安全環境部磯田部長) ① CNとは(振り返り) ② CN推進方策(実践編)	▶P.9
	特装部会／ 脱着車キャリアコンテナ技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度事業計画の進捗と課題対応について意見交換 ② CN活動に関する共通課題の情報共有 ③ 多目的コンテナ普及活動検討会の進捗について報告	

28日	特装部会／サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① メンテナンスニュースNo.57(労働安全規則改正)の意見交換 ② 異業種等工場見学について意見交換
	トレーラ部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 自工会取り組み内容について情報共有 ② CS/SU&コネクテッドWG情報共有 ③ JASIC一般安全分科会情報共有

10月		
2日	第2回中央技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度事業計画の進捗状況の確認と課題対応について意見交換 ② 商用車電動化への会員展開内容の確認 ③ 2023年度技術発表会テーマについて
3日	第2回環境委員会 (当会会議室+Web会議)	① 環境ラベル取得推進 2023年度アンケート結果共有、今後の進め方論議 ② 会員各社のLCA算出方法について論議 ③ 特種部会内CN取組事例共有などの好事例を情報共有
5日	特装部会／粉粒体運搬車技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度事業計画の進捗と課題対応について意見交換 ② CN活動に関する共通課題の情報共有 ③ 工場見学会について意見交換
	資材部会／フィルムグループ(千葉)	「再帰反射材のグレアに関する調査研究」を千葉工業大学で試験を実施
6日	第2回中央業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況の共有・論議 ② CNアンケート内容の論議・決定
10日	特装部会／ローリ技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度事業計画の進捗と課題対応について意見交換 ② CN活動に関する共通課題の情報共有 ③ 工場見学会について意見交換
	バス部会／ ワンマン機器小委員会(Web会議)	JABIA規格「バス乗客降車合図装置」改正内容の意見交換
	バス部会／業務委員会(Web会議)	① 中央業務委員会資料の共有 ② 2023年度活動CN目標達成に向けた活動の共有
11日	中央技術委員会／CS/SU&コネクテッド検討WG(web会議)	① 合同検討会の結果共有 ② 架装工事ガイドライン見直し方針の確認
	トラック部会／部会会議(当会会議室)	① 事業計画の進捗状況共有・論議 ② CN部会活動について情報交換
	バス部会／技術委員会(Web会議)	① 2023年度新規テーマの活動確認 ② 協定規則、法改正動向の共有と対応 ③ 他団体活動の共有
12日	特装部会／クレーン車技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度事業計画の進捗と課題対応について意見交換 ② CN活動に関する共通課題の情報共有 ③ 工場見学会について意見交換
12日～ 13日	環境委員会／ 架装物リサイクル分科会(大阪・福井)	環境基準適合ラベル取得支援のため、(株)ノルテと岩崎工業(株)を訪問 ▶P.12
	現地現物による技能系社員研修(愛知)	トヨタ車体(株)グローバル生産支援センターにて実施 9社12名参加 ▶P.13
13日	バン部会／技術委員会(神奈川)	① 第3回技術委員会を日本フルハーフ(株)工場見学と併催 ② 2023年度技術テーマの進捗共有・論議 ▶P.18
16日	特装部会／塵芥車技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度事業計画の進捗と課題対応について意見交換 ② 塵芥車の製作基準(JABIA-P1701)の見直しについて議論 ③ CN活動に関する共通課題の情報共有
17日	第20回CN専門委員会(Web会議)	① 本部委員会活動の共有・論議 ② 部会活動、支部活動状況の共有と論議
	特装部会／ ミキサ・ダンプ車合同見学会(埼玉)	① メンバー5社10名による交通安全環境研究所自動車認証審査部 自動車試験場を見学 ▶P.15 ② 第2回合同技術分科会開催 ③ ミキサ・ダンプ車における共通課題について意見交換
18日	環境委員会／架装物リサイクル分科会	環境基準適合ラベル取得支援のため、光伸(株)を訪問
	トラック部会／車両運搬車分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度事業計画の進捗と課題対応について意見交換 ② 陸送協会との合同研修に向けた進め方の論議

19日	常任委員会(当会会議室+Web会議)	① 当会ホームページ不具合対応について論議 ② 当会基盤強化&活性化に向けて論議 ③ 2023年度 理事会メンバー見学会論議、確認
19日	第273回理事会 (当会会議室+Web会議)	① 審議事項 第1号議案 新入会員に関する件 ② 報告事項 1) 経団連「モビリティ委員会」報告 2) CNの取組み状況 3) 2023年度事業計画 本部・部会・支部別2/4期実績まとめ 4) 2023年度2/4期 収支実績まとめ 5) 2023年度JABIA規格化・標準化/調査研究2/4期進捗報告 6) CO ₂ ・VOC排出量フォローアップ結果 7) 2022年度会員原簿調査結果 8) 2022年度PL保険加入状況 9) ジャパンモビリティショー2023 当会合同展示について 他
	講演会(くるまプラザ+Web会議)	いすゞ自動車(株)による講演会 「国内商用車市場動向と業界を取り巻く環境」を実施 ▶P.7
	資材部会/フィルムグループ(神奈川)	「再帰反射材のグレアに関する調査研究」を スリーエム ジャパン相模原事業所で実施
	CN勉強会第9回実践編(Web会議)	4社13名が参加し、以下勉強会を開催(講師:トヨタ車体(株)) ① CNとは(振り返り) ② CN推進方策(実践編) ▶P.9
23日	中央技術委員会/ テールゲートリフタ技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度事業計画の進捗と課題対応について意見交換 ② CN活動に関する共通課題の情報共有 ③ 2023年度活動テーマ「TGL労働災害撲滅に向けた取組」について意見交換
	トレーラ部会/サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① 自動車の点検及び整備に関する手引き共有 ② 電動化商用車架装時に係る関係法令と対応の共有
24日	中小会員NW強化WG/ 営業マン勉強会(北海道)	① 「2024年問題への対応」についてのチーム活動成果の 中間報告会を、札幌ボデー工業(株)で開催。 ② 工場見学(11社11名+アドバイザー1名が参加) ▶P.13
24日~ 25日	特装部会/ 清掃車小委員会、工場見学会(茨城)	① メンバー5社14名による(株)加藤製作所工場見学 ② 第2回清掃車小委員会を実施 ▶P.16
26日	特装部会/サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① メンテナンスニュースNo. 57(労働安全規則改正)の意見交換 ② 2024年度メンテナンスニュースのテーマについて意見交換 ③ 異業種等工場見学について意見交換
26日~ 11月5日	ジャパンモビリティショー2023(東京)	東展示棟屋外エリアに合同展示ブースを設置 ▶P.5
27日	2023年度秋季会員大会(東京)	2023年度秋季会員大会を実施 ▶P.3
30日	トレーラ部会/技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2023年度トレーラ部会工場見学会について ② CS/SU&コネクテッドWGについて情報共有 ③ 高速道路における大型貨物自動車等の最高速度引き上げ関係について
31日	トラック部会/業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況の共有・論議 ② 次年度取組み項目の意見交換

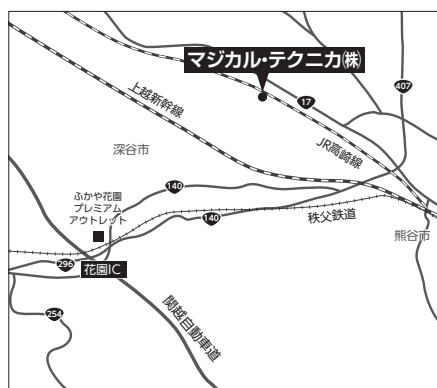
11月

2日	中央業務委員会/管理監督者層合同研修会(当会会議室)	「基本的なリーダーシップ教育とコミュニケーション能力向上」 を目的に外部講師より開催 ▶P.13
6日	中央技術委員会/ 突入防止装置技術委員会(岡山)	JABIAリベット制度に関する運用実態調査を(株)岡山溶接所にて開催 ・使用状況、管理状況、品質保証体系、設計/実験状況 等 ▶P.12
	中央技術委員会/ 突入防止装置技術委員会(京都)	JABIAリベット制度に関する運用実態調査を(株)河車体にて開催 ・使用状況、管理状況、品質保証体系、設計/実験状況 等 ▶P.12
7日	環境委員会 /架装物リサイクル分科会(京都)	環境基準適合ラベル取得支援のため、(株)オーティーエスを訪問 ▶P.12
	バス部会/ ワンマン機器小委員会(Web会議)	JABIA規格「バス乗客降車台図装置」改正内容の意見交換

8日	バス部会／技術委員会・ワンマン機器 小委員会合同会議(Web会議)	① 2023年度新規テーマの活動確認 ② 協定規則、法改正動向の共有と対応 ③ 他団体活動の共有	
9日	トレーラ部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① トラック協会宛講習会実施結果の共有 ② 2024年版特車通行制度の緩和について情報共有	
9日～ 10日	現地現物による技能系社員研修(宮城)	トヨタ自動車東日本(株)トヨタ東日本学園で実施 2社3名参加	▶P.13
10日	環境委員会／ トラック解体作業見学(栃木)	JTP解体作業見学会を実施	▶P.12
13日～ 14日	現地現物による技能系社員研修(神奈川)	日産車体(株)IN地区研修センターで実施 2社3名参加	▶P.13
14日	中央技術委員会／CS/SU&コネクテッド検討WG(web会議)	① 自工会合同会議、国交省説明結果の共有・論議 ② その他(次回日程等)	
	トラック部会／工場見学会(石川)	トランテックス(株)工場見学会を開催。23社27名が参加	▶P.17
15日	特装部会／脱着車キャリア・コンテナ 合同分科会(栃木)	(株)ティセンテクノ本社工場見学会を実施	▶P.16
16日	環境委員会／架装物リサイクル分科会 (当会会議室+Web会議)	① ラベルアンケート回答を踏まえ、説明会の要否を検討 ② 訪問支援情報・解体工場見学の共有 ③ 環境対応事例発表会・表彰について意見交換	
	特装部会／サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① メンテナンスニュースNo.57(労働安全規則改正)について ② 2024年度メンテナンスニュースのテーマについて意見交換 ③ 異業種等工場見学について意見交換	
	バス部会／ 技術委員会塗装デザイン研究会(愛知)	塗装技術者向勉強会を大日本塗料(株)小牧事業所研修センターで実施 16社16名参加	▶P.19
	トラック部会／車両運搬車分科会 (東京)	① 東京都トラック総合会館にて陸送協会との合同研修会を開催 ② 車両運搬車の生産状況及び安全対策についての論議	
	トレーラ部会／サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① 工場見学会(12/1,2)の準備状況の確認 ② 日常点検下敷きの準備状況の共有	
16日～ 17日	特種部会／工場見学会(熊本・佐賀)	(株)イズミ車体製作所、(株)キョーワ工場見学会を開催	▶P.16
17日	トラック部会／技術委員会(京都)	① 工場見学会を須河車体(株)本社工場にて実施 ② 2023年度基準化・標準化進捗報告・論議 ③ 中央技術委員会情報の共有	▶P.18
21日	特装部会／脱着車分科会(多目的 コンテナ検討会)(当会会議室)	多目的コンテナの活用形態について議論	
	資材部会／第一分科会(東京)	産業情報センターを見学	▶P.20
22日	環境委員会／ 工場環境分科会(Web会議)	CN対応各種WGの進め方論議	
	特装部会／塵芥車分科会(Web会議)	塵芥車の製作基準(JABIA-P1701)の見直しについて議論	
24日	特装部会／業務委員会(当会会議室)	① 事業計画4/3確認 ② 中央業務委員会報告内容の確認 ③ 工場見学会開催の検討	
	小型部会／工場見学会(宮城)	① トヨタ自動車東日本(株)大衡工場の見学実施 ② 異業種研鑽活動/東北復興状況を視察	▶P.20
27日	バン部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 中小会員支援状況の中央業務委員会報告内容共有・論議 ② CN対応の今後の進め方論議	
	トレーラ部会/技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① CS/SU&コネクテッドWGについて情報共有 ② 高速道路における大型貨物自動車等の最高速度引き上げ関係について ③ R158打合せについて情報共有	
28日	第3回広報委員会 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況の共有・論議 ② 車体NEWS冬号の校正・編集	
29日	安全衛生活動WG(神奈川)	日本フルハーフ(株) 厚木本社工場にて 工場見学及び事例紹介と共有を実施	
30日	特種部会／合同委員会 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況の共有・論議 ② 最新法規動向の共有・論議	



柴崎 宏之 代表取締役社長



DATA

■本社 〒366-0051

埼玉県深谷市上柴町東2-7-5

TEL 048-551-6448

FAX 048-551-6449

URL <http://www.ts-f.co.jp/>

■資本金 30万円

■従業員 10名

■事業所規模

本社 敷地:2,150㎡ 工場:990㎡

東方工場 敷地:4,950㎡ 工場:1,320㎡

折之口試験場 敷地:990㎡ 工場:450㎡

■車体工業会加入

2021年11月(特種部会)



マジカル・テクニカ(株)

自前の試験設備と、独自のノウハウで、 保安基準クリアと認証をサポート。

自動車、バスのシートの保安基準及び認証に関する試験を2001年から徹底的に追及。自社の強度試験装置を使い、日々シートの安全性と向き合っている。自社製品に限らず、法規のプロフェッショナルとして、他社の保安基準に関わる認証申請手続きもサポートしている。

車体工業会 小森 啓行

● 特徴・沿革

マジカル・テクニカ(株)は、4WD車両のドレスアップ事業を行うティーエスファクトリー(有)のグループ企業として、2006年11月に設立。

NOx・PM法が2001年6月より施行され、ディーゼル車両の売上が著しく減少し、4WD事業が厳しくなる。

同時期の2001年1月に、運輸省が国土交通省に名称変更となり、当時の知人から「車両の基準に関して今までの米国主導の基準から、欧州主導の基準への変更が進む」という情報を得る。

改造車両認証における保安基準が大きく変動することを想定して、事業内容の舵を大きく切り返し、保安基準及び認証に関する試験の実施の事業化を決断する。

2002年、柴崎社長は、単身で全国全ての陸運支局を回り、とにかく顔と名前を覚えてもらうことから始め、法

律や試験の勉強に勤しんだ。

全国どこの事務所でも、「改造申請書類が受理される書類」の作成を最優先と考え、他の認証機関の協力及び、自社での認証に関わる試験機材(審査事務規程遵守の装置を保有)の設計・開発と製造に10年近くの月日を費やした。

上記の取組みにて、同社の行う試験業務に対しての評価が向上し、2010年頃から、海外の大型バスの日本国内向けシートの設計・開発を手掛け始める。また、大手企業の役員専用車用の特別なシートの装着に関わる施工や認証申請等も請け負うようになる。

国産水陸両用バスのシートの国内初の認証申請等、シートを中心とした改造及び認証申請に関する依頼が増え、新事業への長く地道な努力と挑戦が徐々に実を結び始めてきた。

製品

― 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

主に、自動車やバス用のシートの、保安基準及び認証に関する試験と認証取得のための事業を専門に行っています。

試験設備を持たないメーカーが、外部の検査機関に出して、安全基準を満たしていなかった場合、設計からやり直して、再度試験を受けなければならないので、コストも時間もかかってしまいます。

弊社では強度を測定できる自社開発の試験設備を保有しています。試験にて、強度不足が判明した場合に、長年培った知識で、強度不足の部位の確認・補強に取り掛かり、補強実施後に改めて、再試験を行うことが可能です。

豊富な経験と知識で、認証申請に向けてどのような検査をすればよいか、どのような書類を用意すればよいかも熟知していますので、無駄な検査を省き、コストを削減するサポートも行っています。



自社設計・開発による強度試験装置

― どのような製品を手掛けているのでしょうか？

シートベルトを装着しないと警告ランプが点灯するバスシートを日本で初めて開発し、関連特許を取得いたしました。このシートを採用していただいた旅行会社では、乗客全員のランプが消えないと発車しないルールを取り入れています。

路線バスを除くバスのシートベルトは一番前の席以外は2点式とも3点式とも規程はありませんが、弊社では安全性を重視して、全席3点式シートベルトを推奨しています。3点式シートベルトの超軽量バス用座席も開発しましたので、近日発売して更なる普及を目指したいと思っています。

車以外にも、大手遊戯施設の依頼で、遊戯機器のシートベルト未装着を一目で確認できる装置を開発中です。未装着時は警告ランプが点灯し、装着時に消灯するシステムで、全員のシートベルト装着を確認後、スムーズな発進が可能となり、稼働率の大幅な向上が期待できます。



強度試験



自社開発・設計の様々なシートが並び

― 御社の経営方針は？

人が座るシートの安全性を限りなく向上させていきたいと思っています。

認証試験の業務を行っている、専門家として、他の事業への協力を依頼されるケースも多く、現在、既存の国産車のEV化の事業にも参画中です。

独自の認証試験の事業を進めることで専門知識を活かし、様々な面において、関係企業様をサポート出来る会社を目指しています。



試験場には、試験に用いた各車両のシート台座を用い、実車と同じ状態での試験を行っている



人

― 御社の特徴は？

弊社では製造スタッフが、各個人にて、日々探求精神による製品開発・製造を進めています。

実作業においては、それぞれのスタッフの役割分担の明確化を実地しています。

― 次世代の教育について

自動車業界は、脱炭素へと大きく変動しています。スタッフ全員が、今後も自動車業界の一員となれるよう、環境に重点をおいた教育を進めることで、環境への企業努力を続けていきたいと思っています。



本社工場ではシートの交換等を行っている

ラッピングのプロフェッショナル

(株)アサイマーキングシステム

今年の10月に新会員として入会した(株)アサイマーキングシステム(以下AMS)は、高度なラッピングやフィルムマーケティングを事業としている成長企業である。

創業社長が川崎市のカレーで自動車用のストライプステッカーを販売・施工する事業を1984年から開始、1991年に住友スリーエム(当時)と特約加工販売契約を締結し、事業を拡大していく。2000年に東京都屋外広告条例が改正され、路線バスのラッピング広告が急増。翌年には鉄道車体の広告も解禁となり、AMSの成長の追い風となる。

ニーズが拡大していく中で、デザインから貼付施工、元に戻す剥離作業まで一貫して行える技術力と業務体制を着々と整えてきた。現在、車両マーケティングは年間15,000台以上の受注をしている。



施工作業

路線バスやJR東日本の鉄道車両のラッピング広告の他、航空機や商業ビルの壁面等の巨大なグラフィックスからエスカレーターのステップや手すりに至るまで、AMSが手掛けてきたラッピング広告は、誰もが必ず目にしているといえるだろう。様々な対象に行ってきた実績と卓越したラッピング技術は、AMSのホームページでも紹介されている。

順調な成長を支えてきたのは、「ただの看板屋ではない」クラフトワーカーズ・ウェイというプロフェッショナル意識であった。

4つの強み ①施工技術 ②パーツ設計 ③管理体制 ④品質

マーケティングフィルムを立体物に美しく貼るためには、熟練した技術と積み重ねた経験値が必要とされる。さらに商用车や商業施設での仕事は、常に短納期が求められる。

AMSでは高い技術水準を維持するために「AMSマイス

浅井 大輔
代表取締役社長阿部 寛信
営業推進ユニット
マネージャー柳下 純一郎
営業推進ユニット

ター認定制度」を自社で制定し、プロ意識の育成と技術の向



高度な社内品質基準を独自に設けている

上を図っている。マイスターには技術だけでなく、フィルムの特性や品質に対する広範な知識も求められている。

AMS社内の施工職人は十数名であるが、北海道から九州まで協力会社のネットワークを構築、各会社の得意分野や技術力を把握し、技術交流や指導に取り組む専門部署もあり、100名を超える熟練職人で全国をカバーしている。

マーケティングフィルムの作成では、平面デザインをパーツに分解するパーツ設計が重要となる。フィルムの性質や対象物の形状、貼る順番までを想定しながら行う設計のノウハウも長年磨き続けてきたAMSの技術力である。

完了した業務の内容はすべてデータ化、作業マニュアルを作成して、いつでもどこでも参照できるようにしている。

AMSは人材や情報システムへの惜しみない投資を続けてきた。マーケティング業務に特化した業務受注管理システムAMS-BOS(Business Operating System)システムを開発、2013年から運用を開始し、業務全体において属人化を排除し、高い生産性を実現している。

現在、更なるオペレーションの向上を目指し、新システムの開発が進められている。

使用するフィルムに関しても、メーカーの推奨条件に従って材料を扱うのではなく、必ず自分たちで検証を行うことで、それ以上のより高い品質を担保している。

マーケティングフィルムと再帰反射材による
施工をした配送車両

培ってきた経験と高い技術力で、最初から最後まで徹底して顧客の要望に応じていく姿勢を貫き、これからもマーケティングフィルムの新しい価値を創造していく。

(株)アサイマーキングシステム

代表取締役社長 浅井 大輔

どんなところにも、どんな目的にも、どんな条件でも。

【本社】〒215-0033 神奈川県川崎市麻生区栗木2-3-13
Tel: 044-980-1600 <https://www.ams-fleet.com/>



私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

製法・製品を通して、循環型社会づくりに貢献

小松マテレー(株)

小松マテレー(株)は、1943年に小松織物精練染工(株)として、石川県で創業。染色を基盤に多彩な事業領域をカバーする「マテリアルメーカー」として、2023年に創業80周年を迎えた老舗企業である。現在は年間約2億㎡の生地を国内工場で生産している。



自社の炭素繊維素材を耐震補強に用いた
小松マテレー日本本社棟

国内・海外のブランドに供給しているファッション・スポーツ等の衣料分野を主力とし、医療、車輛資材、建築建材、電材等の資材分野、さらには炭素繊維や超発泡セラムックス建材等、環境共生素材を軸とした先端材料まで、幅広い事業展開を行っている。

繊維メーカーに求められる環境対応

2000年代に入ると、ファストファッションの普及により、繊維産業が環境を汚染しているとの調査報告が国際NGO グリーンピースから上がり、2011年7月に始まったデトックスキャンペーンには多くのアパレルブランドが呼応した。

同社は2014年頃から、海外ブランドを中心に、マテリアルメーカーに監査が入るようになり、環境に優しい素材や工程が強く求められるようになった。

1993年の創業50周年の時に、経営理念を刷新、「地球・社会への貢献」を掲げ、いち早く環境保全を意識した取り組みを進めてきたが、2014年にCO₂・VOCの削減に明確な数値目標を打ち出し、燃料の転換、設備の入替、工程の見直し等に様々な取り組みを行い続け、2020年には2005年比で33%のCO₂削減を達成し、環境負荷低減に向けた製品づくりを積極的に進めている。現在もサステナブルなものづくりが求められ、設備や工程、素材の多方面においての研究が続けられている。



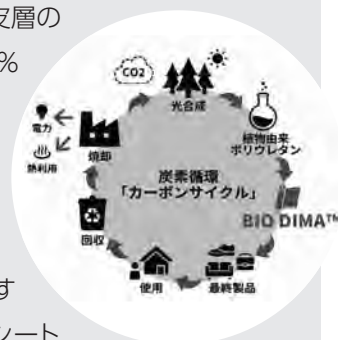
邑井 武尊

第3事業部 第3Gグループリーダー 兼 車輛資材チームリーダー

環境対応製品で人々の感動を創造する

2000年代から、廃棄物をリサイクルしたり、省エネルギー化の工夫をした環境対応製品の開発が進められてきた。汚れ落ちに優れる、耐久性が高い等の使用時の機能を加えた製品群も開発し、「mateReco®」のブランド名で販売している。2023年10月に開催された「サステナブル マテリアル展」にも出展。様々な産業から問合せが増えているという。

合成皮革「^{ビオ ディマ}BIO DIMA™」は表皮層の材料に、植物由来原料を最大50%含有するポリウレタンを使った耐久レザーである。さらに基材には低温かつ短時間で染色されたダブルエス「WS™」という生地を使用して、従来品よりもCO₂排出量を削減することを実現。炭素循環対応のシート生地として自動車産業を中心に高い関心を集めている。



環境配慮型製品の開発が中心となっているが、自然由来の材料を使った製品の開発は難しく、化学物質を使った従来品との性能差を埋める部分にかなり苦勞するという。従来品と比較し、性能の維持やコスト面で高いハードルを越えなければならないが、環境対応品を価値として評価してくれるファッションブランドが増えており、性能向上への投資と挑戦が続けられる原動力となっている。2030年には環境対応製品が売上全体の50%に達することを目標としている。

廃棄物を活用して、新しい製品を作る取り組みも行われている。染色工場の排水処理過程で発生する汚泥をリサイクルし、優れた保水性・透水性・遮熱性を持つ発泡セラムックス「グリーンビズ®」は新しい舗装材料として注目されている。また、余剰在庫を使った機能的なオリジナルアイテムを販売するオンラインストアを運営する等、全方位的に環境配慮型製品の普及を目指している。

小松マテレー(株) 代表取締役社長 佐々木 久衛

独自の加工技術・先端素材の提供など、事業活動を通して、地球社会的な課題解決に貢献します！

【本社】〒929-0124 石川県能美市浜町ヌ167番地

Tel: 0761-55-1111 <https://www.komatsumatere.co.jp/>



知りたい

「2025年大阪万博」

そこが

第59回

1970年から55年を経て、2025年4月から半年間、再び大阪の地で万博が開催される。各種情報が既に提供されており、ご存知の方も多いかと思われるが、開幕まで1年半を切った大阪万博について報告する。

Q1 開催概要は？

名 称 2025年日本国際博覧会(略称・大阪・関西万博)
 テー マ いのち輝く未来社会のデザイン
 サブテーマ いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ
 コンセプト 未来社会の実験場
 1) 展示を見るだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」
 2) 万博開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ
 3) 人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場に
 会 場 夢洲(ゆめしま)(大阪市此花区)
 期 間 2025年4月13日～10月13日



リング1階 グラウンドウォーク



リング2階 スカイウォーク

Q2 運営組織は？

○名誉総裁： 秋篠宮皇嗣殿下
 ○会長： 十倉雅和
 (一社)日本経済団体連合会会長
 ○事務総長： 石毛博行
 前(独)日本貿易振興機構理事長
 ○副会長： 13名
 ○理事： 13名
 ○副事務総長： 5名
 ○監事： 2名
 ○組織体制： 9局(室) 18部 52課(室)
 ○事務局人員数： 681名(2023年7月1日時点)

Q3 催し物は？

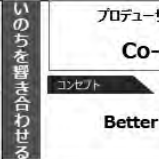
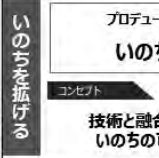
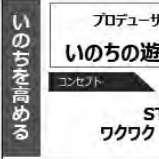
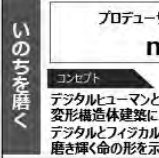
1. パビリオン出展
各々の立場でSDGsに向けた取組みを持ち寄り、会場全体で未来社会の姿を描く
2. テーマ事業
シグネチャープロジェクト(いのちの輝きプロジェクト)
3. 未来社会ショーケース事業
未来の次世代技術・社会システムの実証と実装
4. テーマウィーク
週毎に設定の地球的課題をテーマに、解決策を話し合う対話プログラムとビジネス交流
5. TEAM EXPO 2025
共創チャレンジ:テーマの実現、SDGsの貢献に向けた多様な活動共創パートナー:多様な活動を送出支援する企業・団体

<テーマ事業> シグネチャープロジェクト(いのちの輝きプロジェクト)

いのちの輝きを語り、深め、未来に残すことを象徴するパビリオンとイベントで構成

8人のプロデューサーによる展示で会場内最大級の領域型パビリオンを構成 & 会場内外でイベントを実施

[シグネチャープロジェクト(いのちの輝きプロジェクト)のコンセプト・展示イメージ]

 プロデューサー 河瀬 直美 いのちのあかし コンセプト わたしのなかのあなた、 あなたのなかのわたしに出会う場所 体験イメージ © 2023 Naomi Kawase/©UCC All Rights Reserved.	 プロデューサー 宮田 裕章 Co-being コンセプト Better Co-being 体験イメージ ©SHIBA	
 プロデューサー 小山 薫堂 EARTH MART コンセプト 「食」と「いのち」にまつわる当たり前を リセットし、ひとりひとりの行動を変える ヒントにあふれた市場 体験イメージ ©EARTH MART / EXPO2025	 プロデューサー 石黒 浩 いのちの未来 コンセプト 技術と融合することにより、 いのちの可能性を広げる 体験イメージ ©FUTURE OF LIFE / EXPO2025	
 プロデューサー 河森 正治 いのちめぐる冒険 コンセプト 今、ここに共に生きる奇跡 体験イメージ © 2023 Shoji Kawasumi/©Mori Shoji/Oodasa All rights reserved.	 プロデューサー 中島 さち子 いのちの遊び場 クラゲ館 コンセプト STEAM ワクワク!を探す旅へ 体験イメージ ©Koblen Inc. & Fubuo Robot Architects All Rights Reserved.	
 プロデューサー 福岡 伸一 いのち動的平衡館 コンセプト いのち動的平衡 体験イメージ © Dynamic equilibrium on LIFE / KAMAKURA	 プロデューサー 落合 陽一 null² コンセプト デジタルヒューマンという新しい身体の写真鏡、 変形構造体建築による新しい風景の鏡、 デジタルとフィジカル二つの鏡を連ねて 磨き輝く命の形を示す 体験イメージ ©2023 Yochi Ochiai / REFRACT All Rights Reserved.	

【出典：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会HP】

<未来社会ショーケース事業>

スマートモビリティ万博	アクセスバス、内外周バス、会場内パーソナルモビリティ、空飛ぶクルマ、ロボット
デジタル万博	XR案内、自動翻訳システム、高速大容量通信環境、大型映像
バーチャル万博	バーチャル会場、XR演出、EXPO共創事業
アート万博	水上ショー、大屋根プロジェクションマッピング、静けさの森インスタレーション、パレード
グリーン万博	水素発電、アンモニア発電、CO2吸収路面素材、次世代太陽電池、帯水層蓄熱
フューチャーライフ万博	・ 未来の都市、住宅 ・ 未来のヘルスケア ・ 未来の食 ・ 未来への行動

<テーマウィーク>

○テーマは地域的課題 ○原則1週間単位でカレンダーを設定 ○実施主体別にトラックを分け、独自にプログラムを実施

○プログラムは会場内及び会場外でも実施 ○開幕前から開幕後までインターネットで発信

Q4 大会盛り上げの活動は？

 【公式キャラクター】 ミヤクミヤク	 【テーマソング】 「この地球(ほし)の続きを」コブクロ	 【アンバサダー】 山中伸弥、ダウンタウン等	 【スペシャルサポーター】 ポケモン等
--	--	---	---

【出典：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会HP】

Q5 車工会会員としては？

- ・ 153の国・地域と8の国際機関(2023年3月時点外務省HP)、企業50社の参加が表明されている一方で、建設資材高騰や工期の短さも絡んでの人手不足等により、パビリオン建設の遅れも報道されている。
- ・ 直接的な当会の「はたらくクルマ」の活躍シチュエーションではないが、経団連十倉会長が会長を務め、かつ世界全体で取り組むべきSDGsをテーマとした万博として、意識を持って大会を注視・参画に努めたい。

働くクルマたち



第43回：コンクリートポンプ車

社会に欠かすことができない車体工業会会員が製造している多種多様な「働くクルマたち」について、毎回車種を選定し、その特徴等、日頃は目にしないところを含めて紹介していく。

第43回目は、特装部会会員が生産するコンクリートポンプ車について紹介する。

1. コンクリートポンプ車とは

資料提供：極東開発工業(株)

コンクリートポンプ車は建設現場において、ミキサ車が搬送してきた生コンクリートをホップで受け、コンクリート輸送管を通じて圧送する作業車である。

コンクリートポンプ車が登場するまでは作業員が手押し式の運搬台車を用いて人力で運搬しており、必要量の生コンクリートを運搬するために多大な人員と時間が必要で、また運搬する高さにも限界があった。コンクリートポンプ車の登場により建設現場の生コンクリート輸送は効率化され、より高層まで圧送することが可能となった。現在ではコンクリートポンプ車は建設現場に欠かすことができない特装車の一つとなっている。



ピストン式コンクリートポンプ車

2. 誕生

資料提供：極東開発工業(株)



人力によるコンクリート打設の様子

戦後10年以上が経過した1955年(昭和30年)頃は、大都市を中心に戦後第二のビル建設ブームが巻き起こった時代であった。

この旺盛な需要を背景に、建築土木業界では合理化や省力化のための機械化が押し進められた。しかしコンクリート打設の機械化に関しては、日本ではまだ製品化されておらず人力による打設が主であった。

日本におけるコンクリートポンプ車は、1950年以降欧米からの技術導入により国産機が相次いで開発された。

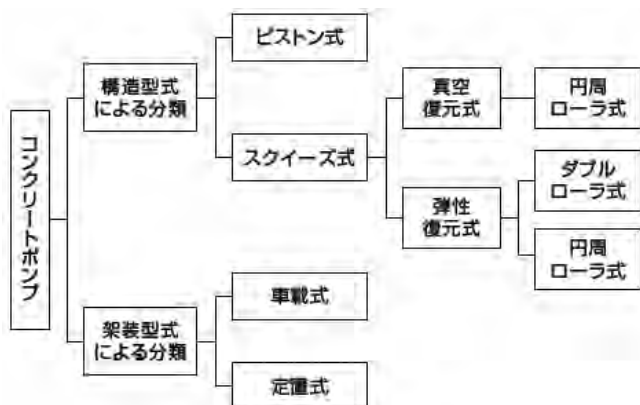
1960年頃までは機械式クランクシャフト駆動機構が中心であったが、その後性能やランニングコストに優れた油圧式にシフトしていく。



スクイーズ式コンクリートポンプ車

3. 種類と特徴

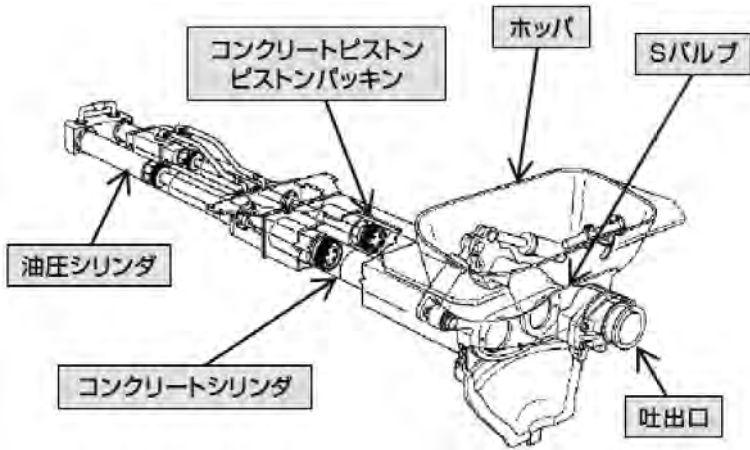
資料提供：極東開発工業(株)



■コンクリートポンプの分類

分類としては、構造型式と架装型式によって分類される。構造型式による分類では、ピストン式とスクイーズ式に大別される。また、架装型式ではトラックシャシに架装した車載式と現場に設置する定置式に大別される。

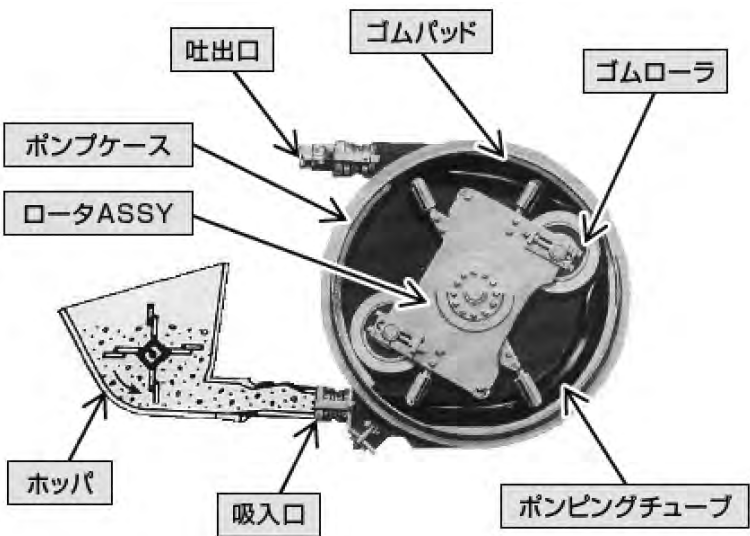
■ピストン式



ピストン式はコンクリートシリンダ内のコンクリートピストンが前後することで注射器のように生コンクリートを吸い込み、押し出す構造となっている。

油圧シリンダによりコンクリートシリンダ内の生コンクリートを直接押す機構であるため高圧・大吐出量の能力を持つが、構造が複雑となり重量が重くなるため中型車以上のトラックに架装される。

■スクイーズ式(真空復元式)



スクイーズ式はポンプケース内にU字に埋設されたポンピングチューブをローラが押し潰しながら絞ることで生コンクリートを押し出す。

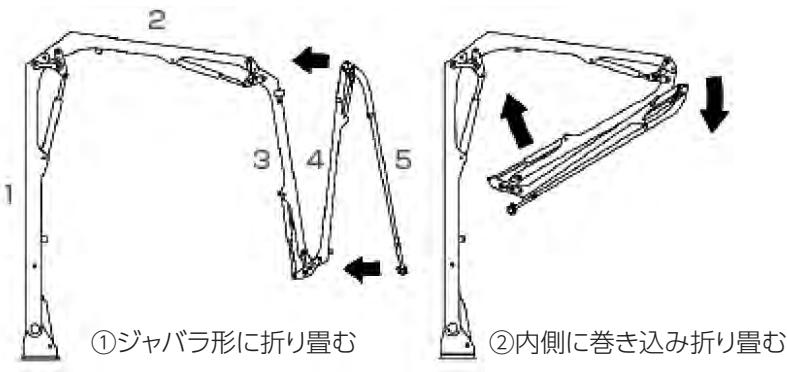
吸入はローラにより押圧されたポンピングチューブが復元する際に発生する負圧により行う。ポンピングチューブとローラによって吐出と吸入が行われることから切換え弁が不要になるため構造が比較的簡単である。ゴムチューブを使用して生コンクリートを圧送するためピストン式と比較して低圧・低吐出量となるが、構造が簡単であり小型軽量であることから小型トラックにも架装することができる。

4. 発展と現在

資料提供：極東開発工業(株)

高度経済成長以降においては高層建物が増え、生コンクリートを「より高く、より多く、より速く」が求められ、ポンプ能力と生コンクリートの圧送技術が大きく向上した。

これに伴いピストン式コンクリートポンプ車のブームも長くなり、現在ではブームを5段屈折することが可能なコンクリートポンプ車が開発されている。

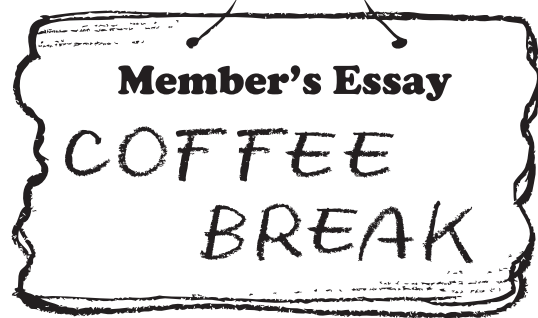


5段屈折ブーム ピストン式
コンクリートポンプ車

5. コンクリートポンプ車 年度別生産台数

(台)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
大中型	162	168	198	184	166	154	165	172	157	96
小型	254	238	192	222	227	212	217	204	204	234
合 計	416	406	390	406	393	366	382	376	361	330



読書の秋

(株)相模ボデー 総務 佐藤 かおり

皆さん、猛暑の夏も終わり、過ごしやすい秋になりました。秋といえば「食欲の秋」、「スポーツの秋」などいろいろありますが、私は「読書の秋」をお勧めします。

読書といっても難しい本は苦手なので直木賞作家や映画の原作になった小説などを楽しんでいます。

今回は皆さんにお勧めしたい1冊をご紹介します

お勧めは私の大好きな一平二郎とって「藤沢周平」、「司馬遼太郎」、「池波正太郎」の中からの作品です。

司馬遼太郎や池波正太郎は皆さんご存じだと思いますので、藤沢周平の「用心棒日月抄」という作品をご紹介します。



おすすめの小説「用心棒日月抄」

この小説は東北の小藩を諸般の事情で脱藩し、江戸で浪人暮らしをする青江又八郎と、その周辺の人物を描いた時代小説ですが、当時の長屋の生活や食事など市井の人物までもが生き生きと描かれていて、用心棒の奮闘ぶりや自身

のお家騒動、並行して忠臣蔵の討ち入りまでのエピソードがちりばめられており、最終話まで目が離せません

また1話ごとに分かれているので読みやすいです。続編も出ていますが、まずは1作目から読んでみてください。

最近はいPadの地図アプリを見て江戸の風景を想像しながら読み返しています。

最後に、この小説をドラマにするなら脚本は宮藤官九郎、主演は元TOKIOの長瀬智也君で見てみたいです、絶対面白いです(笑) キャスティングは私がしたいな…

そんな妄想をしながら今夜も読書しています。

キングダムの世界に

東京車輛(株) 代表取締役 片山 安宏

漫画キングダムが好きな仕事仲間3人で漫画の舞台である中国西安に2019年11月に行ってきました。中国人の友人が成都に住んでいたのも、車で観光案内を依頼しましたが、聞くと700km離れており、運転が大変だったようです。

中国の大きさから、近いと勘違いしていました。(お詫びに2023年8月に日本旅行に来られた時に6日間日本を案内しました)

まず西安に着いて、今までの中国イメージが改善されていて驚きました。

- ① あんなに煩わしかった車のクラクションの音がなくなっていました。
- ② 無秩序に道路横断していた歩行者が、横断歩道を渡っていました。
- ③ 道路にゴミが散乱していたのが、道路にゴミがなくなっていました。

秦の首都の成陽跡地には何も無かったので、始皇帝陵と兵馬俑博物館に行きました。



兵馬俑博物館にて

兵馬俑の壮大さに驚き、発掘品を移動して保管するのではなく、発掘場所に飛行機の格納庫のような大きな屋根を作り博物館としてしまう方法に再び驚きました。発掘済は一部で、まだ未発掘が沢山あるそうです。始皇帝は万里の長城以外にも驚きのスケールの物を残しています。

兵馬俑の甲冑を着て大半は徒歩で広い中国大陆を飛び回っていたなんて信じられません。

西安にて壮大な中国のドラマを妄想していたら英雄がそばにいたような気がしました。



飛行機の格納庫のように巨大な博物館

“審判員”として 高校野球にかける想い

日産車体(株) 実験部 きたその くにひろ 北園 邦広

スポーツにおける「審判員」をご存じでしょうか？ 勝ち負け勝負を行う上で必要不可欠の存在です。

そして野球というスポーツは審判員が「ストライク」「アウト」「セーフ」の判定をしないと試合進行しない競技です。夏になると連日NHKで中継されている甲子園、全国から勝ち上がった高校球児が優勝を目指して一つの白球を追い掛け、日本中に感動を与えてくれます。甲子園の前に地方大会が行われ、神奈川県の前選は7月上旬から始まり、準々決勝にもなると、朝から長蛇の列となり満員になります。世間では野球人口は減ったと言われていますが、野球ファンはまだたくさんいます。

その高校野球を陰で支えている「審判員」、地方大会では延べ1万6000人の審判員が国民的行事を支えています。そして私が所属する神奈川県の高球野球の審判員は約300人。夏の地方大会は平日に試合が行われ、ほとんど



審判講習会風景

の審判員はボランティアのため、会社を休んで高球野球の審判を行っています。夏の神奈川予選の前には我々審判員は審判技術の向上を目的に神奈川県横浜の保土ヶ谷球場にて審判講習会を行っています。受講生全員で「ストライク」「アウト」「セーフ」の発声練習とジェスチャーの練習を行います。声が枯れそうになるまで練習します。大会前に辛い(?)講習会を行うことにより、我々審判員も気合を入れて夏の大会に臨んでいます。3月より春の大会が始まり、そして高球3年生最後の夏の大会が行われます。

高球野球の試合時間は約2時間半、延長戦になると4時間以上かかります。真夏の暑さにバテないようにジョギングや筋トレなど身体が衰えないように日々鍛えています。いまさら野球選手として甲子園には立つことはできませんが、審判員なら甲子園に立てる可能性があり、その夢を叶えられる様日々頑張っています！



試合の審判をしている筆者

いどばた会議

私のSDGs Part7

湯たんぽでエコな暖かさを

日産車体(株)

にのみや ふじこ
二宮 富士子

湯たんぽをかれこれ10年以上使用しています。ウエットスーツ素材で表面が熱くならず、じんわり温かいうわらか湯たんぽです。家では井戸水をストーブで沸かし、湯たんぽに入れています。

今年の冬も活躍しそうです。



くず野菜の再利用

日本フルハーブ(株)

いえ き まさる
家木 優

寒くなってくると、「豚汁」を毎週末に作ります。

大根、ニンジンなど根菜は、豚汁には皮を剥いて入れますが、皮も食べられるので、捨てずに千切りにして味付けし、「きんぴら」にして食べています。



台所で出た種は家庭菜園へ

日本フルハーフ(株) くまさか まりえ 熊坂 麻里江

家庭で消費する野菜、果物には捨てる種があるものが多いです。これまで、すいか、かぼちゃ、マンゴー、ミニトマト、アボカドの種を畑にまき、かぼちゃとトマトは再度収穫し食べました。捨てられる種も植えることで環境にも優しく貢献できていると思います。

これからも捨てずに種をまいて育てていきたいです。



使用済みカイロで社会貢献！

日本ペイント・オートモーティブコーティングス(株) もりさと じゅんこ 森里 旬子

冬場の屋外活動時には使い捨てカイロが手放せません！

今までは捨ててしまっていたカイロですが、「使用済みカイロを水の浄化に役立てるプロジェクト」の記事を読み、昨年からせっせと集めています。今年の冬が終われば段ボールがいっぱいになるので、送付しようと思っています。



テニスボールの再利用

富双合成(株) ほりうち まもる 堀内 衛

テニスをしていてボールの消費が激しいですが、使用済みのボールは捨てずにストレッチに使用しています(筋膜リリースにピッタリ)。

また、切り口を入れて椅子の足などに被せ、椅子の足や床の保護としても使用できます。ボールの再利用、他への長寿命化(美観維持)などに役立てています。



ペットボトルの再利用

富双合成(株) もりうち めぐみ 森内 めぐみ

500mlのペットボトル(硬め)をいろいろ再利用しています。お風呂掃除など洗剤のスプレーや植物の水やり、ハッカ油で自作した虫よけスプレーにしたりしています。

口が合えば洗剤のスプレーも再利用できます。



トヨタ自動車東日本(株)
人材開発部技能リソースグループ
とくなが
徳永 さくらさん



我が社の



AGC(株)
モビリティ事業開拓室
みやもと じろう
宮本 二郎さん



高校生の人生に大きく
影響を与えるやりがい
のある仕事です！

持続可能で快適な
社会への変革を
リードしていきます

Q1 どんなお仕事ですか？

私は、新高卒技能職採用の仕事をしています。車両や部品の製造に関わる職種で募集を行い、東北6県の高校を中心に採用活動を行っています。その方の人生に大きく影響を与える仕事のため、とても責任を感じますが、その反面、非常にやりがいのある仕事と感じております。

Q2 仕事で楽しいときは

企業説明会等で直接、高校生とお話をする際に楽しさを感じます。高校生の皆さんは元気でまっすぐで、自分の将来に真剣に向き合っており、その姿を目の当たりにすると、私も、高校生の皆さんと真剣に向き合って対応しなければと身の引き締まる思いを感じております。

Q3 仕事でつらいこと

少子高齢化にともなう労働人口の減少下において、従来通りの活動では、採用に繋がらないことも多々あり、大変さを感じます。今の高校生が何を求めているのかを考え、採用活動を検討しています。日々勉強ではありますが、自身の成長のためにも根気強く挑戦しています。

Q4 これまでの仕事の中で 印象に残っている出来事は？

ある新入社員の方が、当社を選んだきっかけについて話をしてくれた際に、私が対応した企業説明会に参加して、この会社で働きたいと強く決意することができたと教えてくれたことです。自分が会社説明を行い、我が社の魅力を伝えられ、入社に繋がれたことに、喜びを感じた瞬間でした。

Q5 御社のPRをしてください！

トヨタ自動車東日本は、「ものづくりを通じて、豊かな社会づくりに貢献する」のトヨタ創業以来の理念のもと、東北を基盤に地域一体で、日々ものづくりに取り組んでいます。東北から世界へ魅力あるコンパクトカーを通じ、クルマづくりの未来を創造していく挑戦を続けてまいります。

Q1 どんなお仕事ですか？

私の仕事は、モビリティ向けの革新的な商品やサービスを企画し、それらのアイデアを具体的なプロジェクトへと昇華させることです。自動運転やEV、エアモビリティといった急激に進化する市場に対応し、持続可能で快適な社会への変革をリードしています。

Q2 仕事で楽しいときは

お客様との対話や観察を通じて予想外の発見をした際、仮説を超える新しい知見に気づいた瞬間の喜びと、それを創造的な成果へと繋げる過程は、私にとって最も楽しい時です。

Q3 仕事でつらいこと

AGCでは、常に業界の最先端を行く革新性を追求する中で、チャレンジが求められます。厳しい目標は時につらいですが、それを乗り越えたときの成果と成長は、この上ない喜びです。

Q4 これまでの仕事の中で 印象に残っている出来事は？

欧州赴任時、品質問題で苦境に立たされた工場を、新リーダーと共に立て直し、一年で「優秀サプライヤー」の栄誉を得た瞬間と、その祝福の乾杯は、私の心に深く刻まれています。

Q5 御社のPRをしてください！

AGCは、革新的ガラス技術とオリジナル素材開発の先駆者として世界を舞台に展開し、環境を考慮した製品群で持続可能な未来を形成しています。"Your Dreams, Our Challenge"のスローガンの下、私たちは全地域での安全で快適な暮らしの実現を追求し続けます。

2023年4月～9月 会員生産状況概要

① 合計(非量産車+量産車)

- ・4月～9月の累計台数は、前年比22.1%増と、2年ぶりの前年超え
- ・2021年度比でも、11.1%増

② 非量産車合計

- ・4月～9月の累計台数は前年比16.5%増と2年ぶりの前年超え。トレーラを除く全ての車種が前年超えとなった
- ・2021年度比では、8.1%減

③ 特装車

- ・4月～9月の累計台数は、前年比8.0%増と2年ぶりの前年超え
- ・輸送系は同16.6%増、作業系・その他は同4.2%増、輸出向けは同16.8%減

④ 特種車

- ・4月～9月の累計台数は、前年比4.4%増と2年ぶりの前年超え
- ・緊急用が同21.5%増、その他が20.6%増、車いす移動車が同12.0%減

⑤ 平ボデートラック(除シャシメーカー標準トラック)

- ・4月～9月の累計台数は、前年比7.5%増と2年ぶりの前年超え
- ・大型は同14.8%増、中型は19.2%増、小型・軽は同3.8%減

⑥ バン

- ・4月～9月の累計台数は、前年比31.6%増と2年ぶりの前年超え
- ・バン(除く冷凍・保冷車)は同38.6%増、冷凍・保冷車は同19.5%増

⑦ トレーラ

- ・4月～9月の累計台数は、前年比10.0%減と4年連続の前年割れ
- ・その他が7.1%増加したものの、バンが14.2%減、平床が同8.1%減、コンテナが同15.6%減

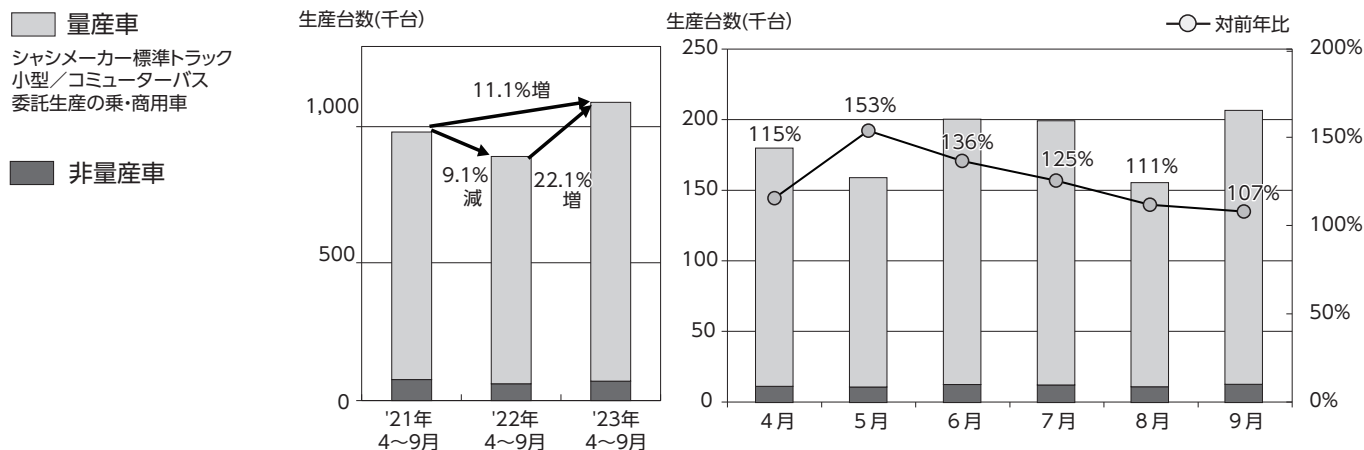
⑧ 大中型バス

- ・4月～9月の累計台数は、前年比87.0%増と2年ぶりの前年超え
- ・路線は同75.8%増、観光は同472.7%増となったものの、自家用は同14.5%減

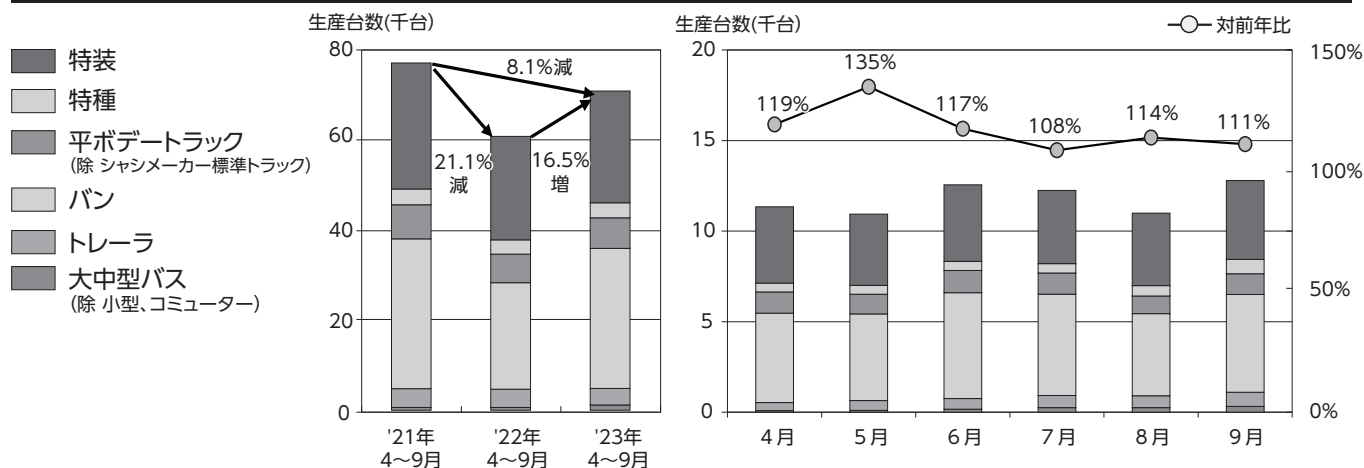
⑨ 乗用・小型商用・軽

- ・4月～9月の累計台数は、前年比22.7%増と2年ぶりの前年超え
- ・国内向けは同34.9%増、輸出向けは同9.0%増

合計(非量産車+量産車)

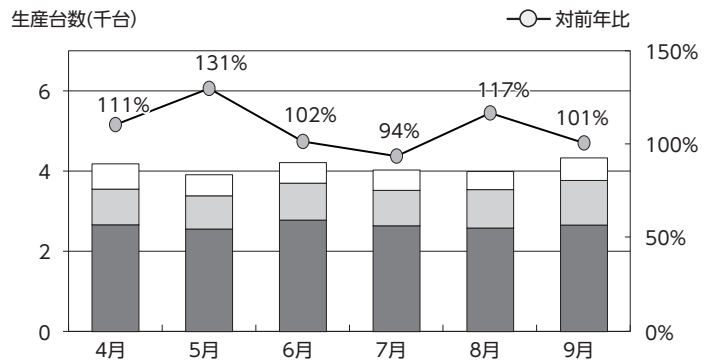
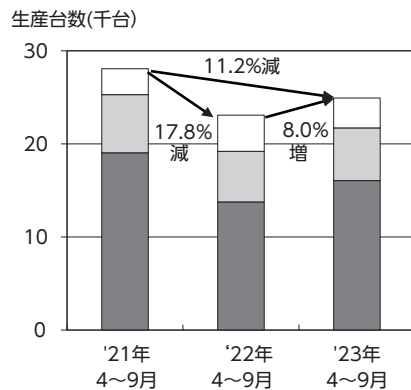


非量産車合計



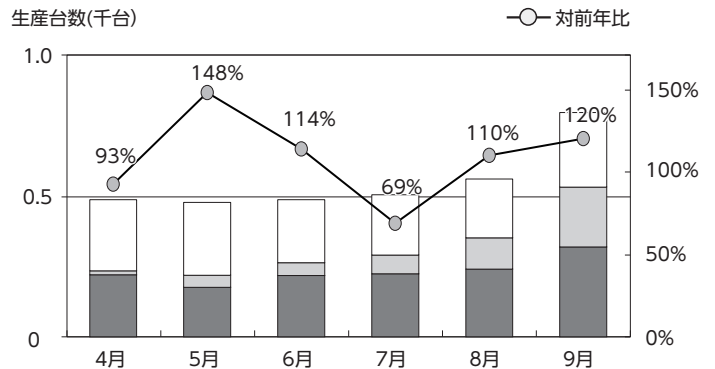
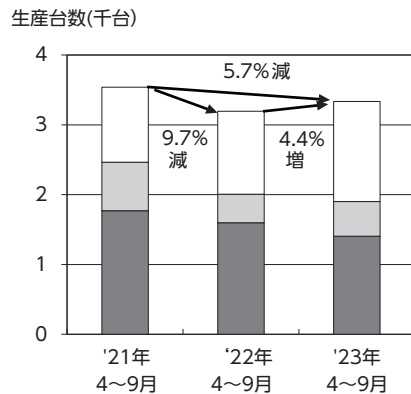
特装車

輸出
作業系・その他
輸送系



特種車

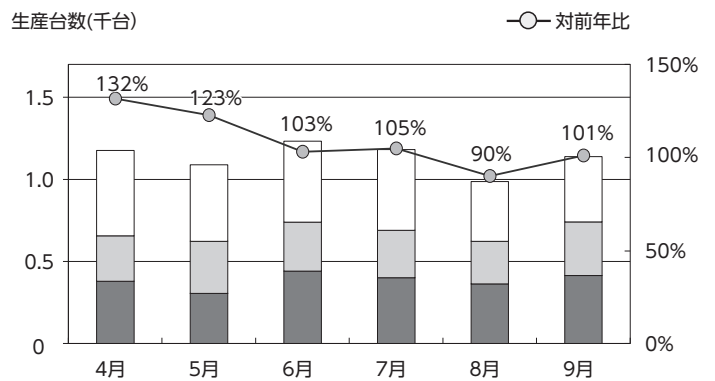
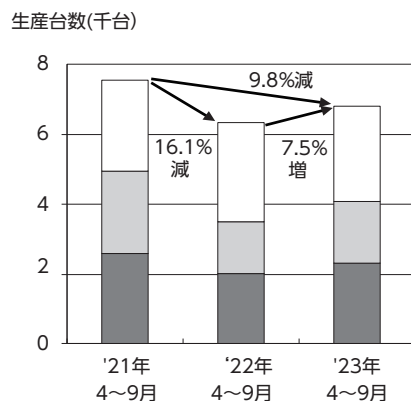
その他
緊急用
車いす移動車



平ボデートラック (除 シャシメーカー標準トラック)

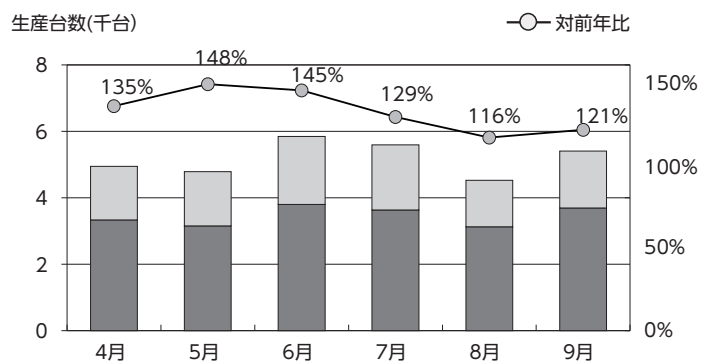
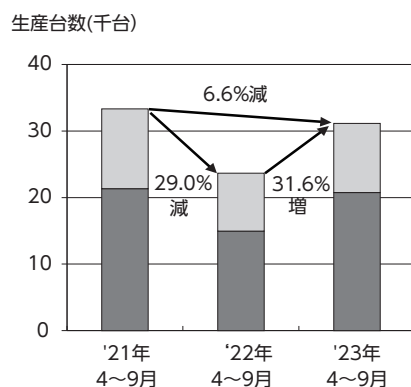
平ボデートラック
(除 シャシメーカー
標準トラック)

小型・軽
中型
大型



バン

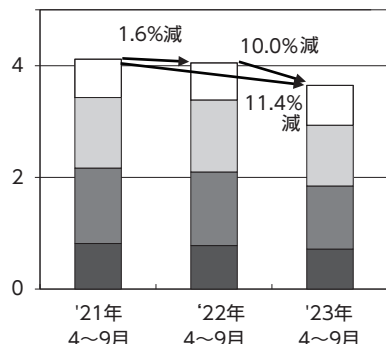
冷凍・保冷車
バン
(除 冷凍・保冷車)



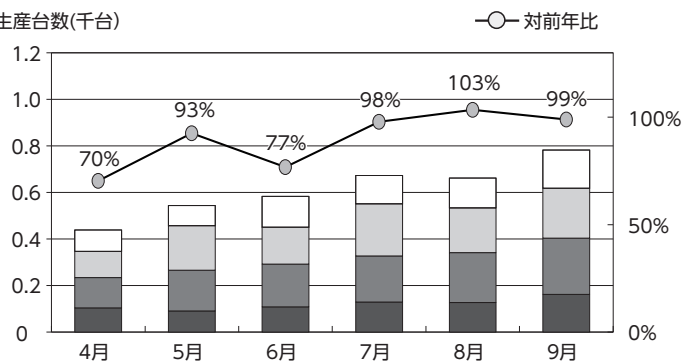
トレーラ

- その他特装系
- コンテナ
- バン
- 平床

生産台数(千台)



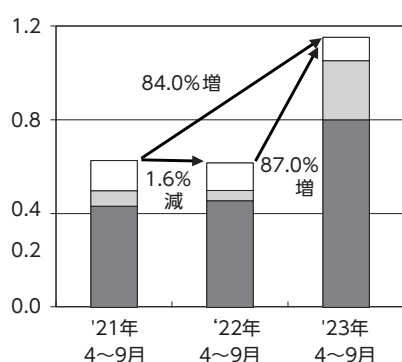
生産台数(千台)



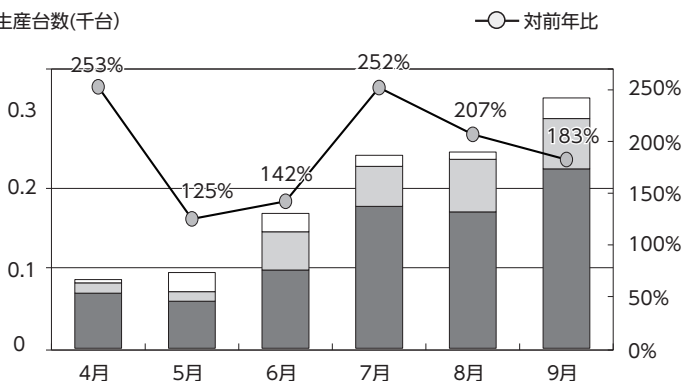
大中型バス

- 自家用
- 観光
- 路線

生産台数(千台)



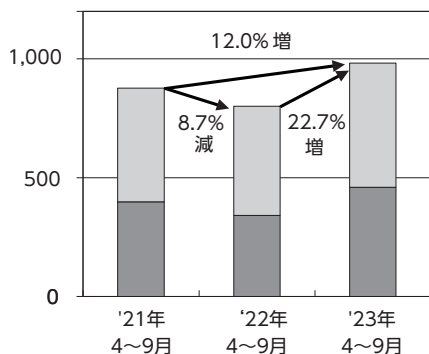
生産台数(千台)



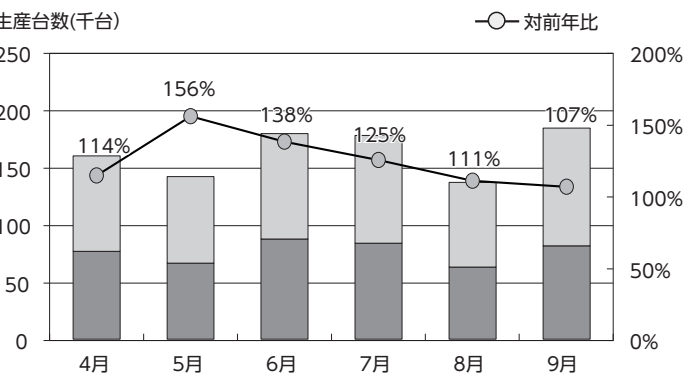
乗用・小型商用・軽

- 輸出
- 国内

生産台数(千台)



生産台数(千台)



車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動に伴う業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<https://www.jabia.or.jp/data/index.php>



ご存知ですか、このラベル。

環境にやさしい働くクルマに付いてます。

“環境基準適合ラベル”

環境基準適合ラベルは、架装物解体作業の容易化、再生資源の適正な処理を促進する
“環境にやさしい車体”であることを証明する車体工業会で制定したラベルです。



環境基準適合ラベル
ホワイトラベル

環境に配慮した
3つの要件

適合
要件

- 3R(リデュース・リユース・リサイクル)
判断基準ガイドラインの作成・活用
- 製造者名、樹脂部品材料名の表示
- 解体マニュアルの作成・公開



新環境基準適合ラベル
ゴールドラベル

ホワイトラベルに
さらに3つの要件を追加

追加
要件

- + 車体製品部材のリサイクル可能率95%以上
- + 車体工業会における
「環境負荷物質自主取組み基準」
を満たしている
- + ISO14001やエコアクション21など
第三者機関による環境認証取得工場で生産



環境省ホームページ「環境ラベル等データベース」へ登録され掲載されています。https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/a04_48.html

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

12



私たちは持続可能な
開発目標(SDGs)を
支援しています。



一般社団法人 **日本自動車車体工業会**
Japan Auto-Body Industries Association Inc.

東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館15階 TEL (03) 3578-1681 FAX (03) 3578-1684

詳しくはWebページをご覧ください。

JABIA

検索

www.jabia.or.jp



トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

ブレーキ機器の水分除去のお願い



ブレーキ機器が凍結すると非常に危険な状態になります。凍結を防止するためにエア・タンクの水抜きを励行すると共に、特に冬期に入る前にブレーキ機器の点検整備を行い、ブレーキ用エアに含まれている水分の除去を行ってください。

トラクタとトレーラのエア・タンクからの水抜き

エア・タンクからの水抜きは、道路運送車両法で使用者または運行する人により日常(運行前)点検することが義務付けられており、車両を安全に運行するために非常に重要なことです。

エア・ドライヤを装着した車両においても水抜きを励行し、車両の安全な状態を確保してください。
※エア・タンクから多量の水分が排出されるときは、エア・ドライヤの機能が低下している可能性があります。

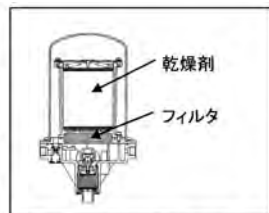
トラクタのエア・ドライヤの点検整備

ブレーキ用エアに含まれる水分は、ブレーキ機器の潤滑油を洗い流して作動を妨げ、冬期においては凍結して作動不良になる危険性があります。これらの問題を解決するためトラクタにエア・ドライヤが装着されていますが、性能を維持するためには定期的な点検整備が必要です。

乾燥剤やフィルタなどの交換時期等については各トラクタ・メーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。



エア・ドライヤの例



エア・ドライヤ内部構造(交換部品)例

トレーラ リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備

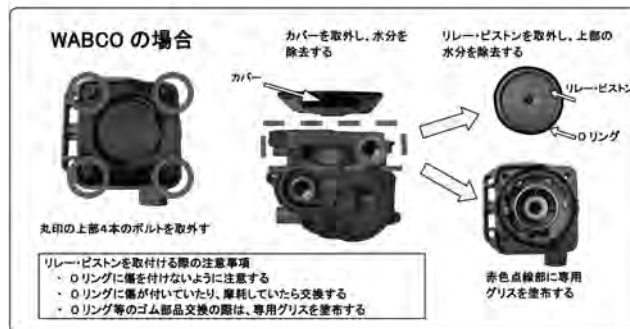
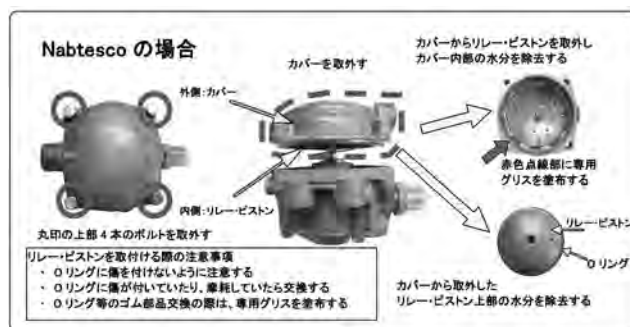
リレー・エマージェンシ・バルブはトラクタから送られたブレーキ用エアをコントロールし、トレーラ各輪のブレーキを作動させる重要な機能を有しています。

ブレーキ用エアに水分や埃が含まれているとブレーキ機器の作動を妨げ、さらに凍結すると作動不良となり危険な状態になります。そのため、冬期に入る前には凍結防止のため必ず点検整備を行い、水分の除去および清掃を実施してください。

リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備要領

詳細については各トレーラ・メーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。

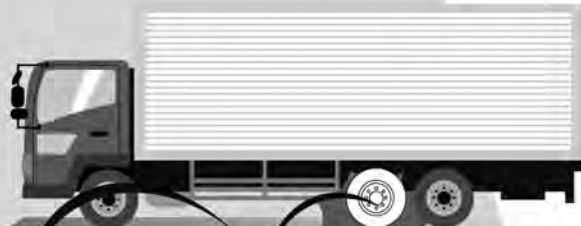
※ブレーキ機器の点検整備は、専門のサービス工場(認証工場)で受けてください。



事業者、ドライバー、整備工場の皆さんの協力をお願いします。



危ない!



防ごう

大型車の

車輪脱落事故

おと

おとさめのための 点検整備

事前の正しい点検が大きな事故を未然に防ぐ唯一かつ最善の手段です。

トルクレンチで 適正締付

適正なトルクレンチによる規定トルクの締め付け、タイヤ交換後の増し締めの実施。

動画をチェック!

正しい点検方法
や連結式ナット
回転指示インジ
ケーターの使用
方法をご案内し
ています。



さ

さびたナットは 清掃・交換

ディスクホイール
取付面、ホイール
ナット当たり面、ハブの取付面、ホイールボルト、
ナットの錆やゴミ、追加塗装などを取り除きます。



な

ナット・ワッシャー 隙間に給脂

ホイールボルト、ナットの
ねじ部と、ナットとワッ
シャーのすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑油を薄
く塗布し、回転させて油をなじませてください。



い

いちにち一度は 緩みの点検

運行前に特に脱落が多い左後輪を中心に、
ボルト、ナットを目で見て手で触って点検します。

「お・と・さ・な・い」
を徹底しよう!



Mr. 整備くん



詳しい情報は日本自動車工業会ホームページへ
http://www.jama.or.jp/truck-bus/wheel_fall_off/

国土交通省 自動車点検整備推進協議会 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会 日本自動車工業会(バス・トラック) 日野自動車 三菱ふそうトラック・バス (LDトラック) 全日本トラック協会 日本バス協会 全国自家用自動車協会 日本自動車整備振興会連合会 日本自動車販売協会連合会 全国タイヤ商工協同組合連合会 日本自動車タイヤ協会 全国石油商業組合連合会 日本自動車床工業会 日本自動車輸入組合 日本自動車機械工具協会 日本自動車機械器具工業会 自動車用品小売業協会 日本自動車車体整備協同組合連合会



水没したトレーラ取り扱いについて

集中豪雨などで水没したトレーラは、ホイールベアリングの錆び付きやブレーキの引きずり等により、脱輪や火災に至る恐れがありますので、以下の「水没トレーラ点検箇所一覧表」をご参照し、必ず点検・整備を行ってください。



水没イメージ

水没した部品の事例



アクスルナット



ホイールベアリング



スピンドル



ハブ内部



ブレーキチャンバ

水没トレーラ点検箇所一覧表 (一般的な形状のトレーラ)

点検箇所			点検内容		
			車軸まで浸水	荷台まで水没	
制動装置	サービスブレーキ	エアカプラ(黄&赤)	—	分解、清掃、給油	
		リレーエマージェンシーバルブ			
		エアタンク		分解、清掃	分解、清掃
		ブレーキチャンバ			
		配管			
	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ操作バルブ	—	交換	
		スプリングブレーキチャンバ	交換		
		配管	分解、清掃		分解、清掃
	ABS装置	モジュレータ	—	交換	
		車輪速センサ			
		配線		分解、清掃	
		配管			
	機構部分	オートスラックアジャスタ	分解、清掃、給油	分解、清掃、給油	
		Sカム及びシャフト			
ブレーキシュー&ライニング					
ブレーキドラム		分解、清掃			分解、清掃
走行装置	アクスル	スピンドル	分解、清掃、給油	分解、清掃、給油	
	ハブ	ベアリング	交換、給油	交換、給油	
		ハブオイルシール	交換	交換	
		緩衝装置	バネサス	スプリング	—
ロッカーアーム及びピン	分解、清掃、給油				
トルクロッド	清掃			分解、清掃	
エアサス	ベローズ		清掃	—	交換
	各バルブ				
	ハイトコントロールレバー				
	配管		分解、清掃		
	ショックアブソーバ		清掃	交換	
リフトアクスル	エアチャンバまたはベローズ		分解、清掃、給油(チャンバ)、 清掃(ベローズ)	分解、清掃、給油(チャンバ)、 交換(ベローズ)	
	配管		分解、清掃(チャンバ)、 —(ベローズ)	分解、清掃	
電気装置	灯火器		7極ソケット	—	交換
		車幅灯			
		方向指示器			
		側方灯			
		リヤコンビネーションランプ			
		後退灯			
		番号灯			
		配線			
その他	連結装置	キングピン	—	清掃、給油	
	補助脚	本体	清掃	分解、清掃、給油	
	車枠及び車体	フレーム	—	清掃	
	架装物	架装物	仕様による	仕様による	



編集後記

車体NEWSは直近3か月の出来事を主な記事としているが、秋季会員大会、ジャパンモビリティショー、いすゞ自動車(株)様による講演会、本部委員会活動として管理・監督者層研修、現地現物による技能系社員研修、営業マン勉強会、環境委員会の解体作業見学会、各部会の工場見学会、支部連絡会や支部毎の研修会や見学会等々、コロナ禍から明け、当会活動が活発に行われた結果で誌面も大変充実した。掲載記事が不足した2020年度を思うと、隔世の感がある。

その中で、中京車体工業(株)森特種部会長の巻頭言、「蟻の思いも天に登る」の貴重なお言葉に感銘を受けた。「極小規模企業の視点から日々めまぐるしく変わる自動車業界の生き抜く方法を模索」「働くクルマ作りを通じたネットワークを駆使し、互いに連携し助け合うことで、SDGsやCN社会に積極的に貢献」「日本の明るい未来と持続可能な社会の実現を共に目指して」と仰っていた。

つい最近鑑賞した「ゴジラ-1.0」は、終戦直後の日本に現れたゴジラを相手に焦土から立ち上がった日本が戦い抜くドラマであるが、映画の素晴らしさをどこかで皆に伝えたいと思っていた最中、折よく森部会長の言葉に巡り合えた。さながら当会は戦後日本、SDGsやCNはゴジラかと、自ら苦笑しながら森部会長の言葉を噛み締めている。

(板倉)

お知らせ

技術発表会のご案内

- ◆日 時： 2024年1月18日(木) 14:30～17:00
- ◆場 所： くるまプラザ会議室 + Web併用
東京都港区芝大門1-1-30日本自動車会館1階
- ◆内 容： 会員各社の新技術、新製品に関する発表6件
- ◆参加費： 無料
- ◆申込み： 当会ホームページに掲載する用紙、又は会員へメール配信する用紙にてお申込みください。

新職員紹介



業務部長
岩満 昭明



業務部 課長補佐
鶴見 孝之

会員の皆様と密に連携し、頑張ってまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

この会報「車体NEWS」は、主として法令改正等含めた自動車車体にかかわる情報をとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車技術総合機構、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

広告掲載会社

株式会社イノアックコーポレーション …… 表2
ワゴロ株式会社 …………… P.27
イサム塗料株式会社 …………… P.28
スリーエム ジャパン株式会社 …… 表3
損害保険ジャパン株式会社 …… 表4

編集後記

車体NEWS

WINTER 2023 冬



2023年12月15日発行

発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684

発行人 板倉 範頭

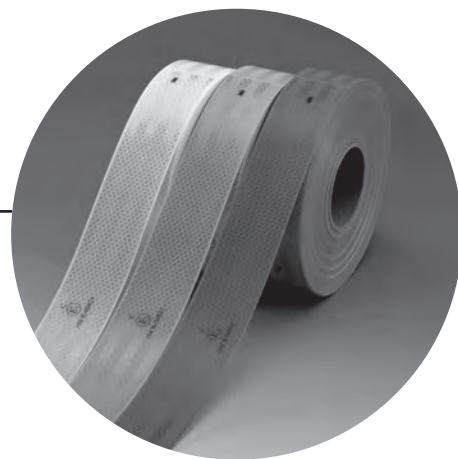
美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング（線状再帰反射材、輪郭再帰反射材等）が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した（※Eマーク付）3MTMダイヤモンドグレードTMコンスピキュエティ反射シートを提供しています。

また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカルTMフィルム、コントロールタックTM コンプライTM グラフィックフィルム、プリントラップフィルム等の施工性に優れた製品を提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。



3MTMダイヤモンドグレードTM
コンスピキュエティ反射シート

3MTMプリントラップフィルム IJ280

3MTM ダイヤモンドグレードTM コンスピキュエティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。（当社ガイドライン通りに貼付された場合）。

事故減少に対するコンスピキュエティ反射シートの有効性に関わる研究報告

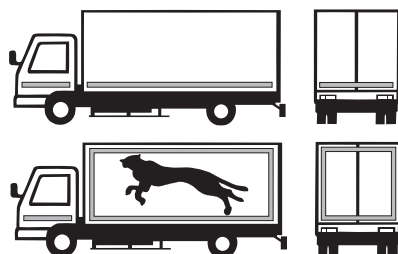
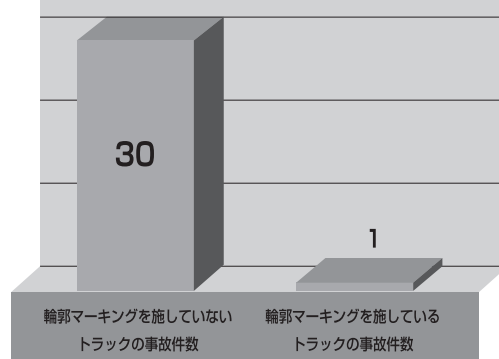
■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が“みられやすさ”（コンスピキュエティ）不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

■事故件数対比



Eマークとは:国際的な車両型式認証の相互承認制度 (IWWTA) に基づき、協定規則の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入り製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示 第55条の2」に定められている基準に適合している製品です。



スリーエム ジャパン株式会社

コマーシャルブランディング&トランスポーテーション事業部

本社 〒141-8684 東京都品川区北品川6丁目7番29号

電話 03-6409-3388

URL <https://www.mmm.co.jp>

3M

NEW!

新しい特約を
ご用意しました

生産物賠償責任保険

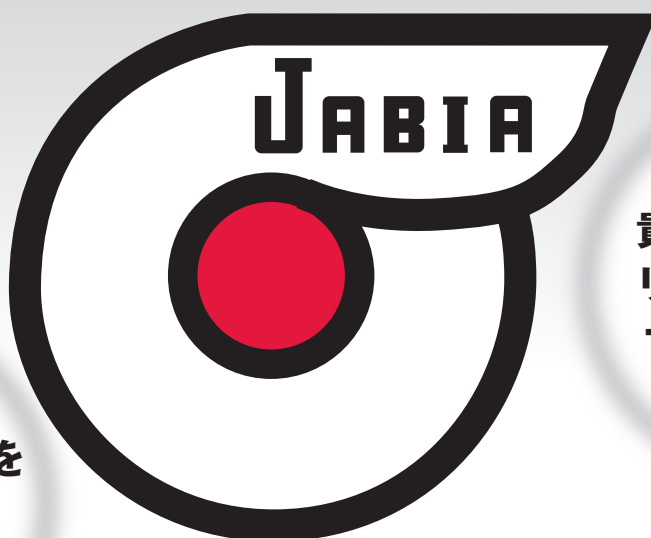
生産物回収費用補償特約

日本自動車車体工業会 団体PL保険制度

自動車メーカーだけではなく、車体メーカー、部品メーカーも責任を問われる時代です。

随時加入申込受付中

車体工業会会員の
皆さまのための
専用の保険制度



貴社のPL対策・
リコール対策を
サポートします

スケールメリットを
生かした割安な
保険料

制度の趣旨

- (一社)日本自動車車体工業会の会員の皆さまのためのPL保険制度です。
- PL保険制度はPL事故および架装等が原因で生じた賠償事故の損害に対応します。
車体工業会のスケールメリットを活かした制度で多くの会員の皆さまにご利用いただいております。
- 今年度新設したリコール・オプション(生産物回収費用補償特約)もぜひご検討ください。
- この広告は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン営業店までお問い合わせください。

お気軽にご相談ください

取扱代理店:

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-4-1 内山ビル2F 株式会社ワイズマン 東京支店

TEL. 03-5623-6455 FAX. 03-5623-6488

ご相談用メールアドレス:jabiahoken@wiseman.gr.jp

引受保険会社:

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損害保険ジャパン株式会社 営業開発部第一課

TEL. 03-3349-3322 FAX. 03-6388-0155



SOMPO

損害保険ジャパン株式会社